

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<p align="center"><b>事業概要</b></p>					担当局	子ども家庭局
					担当課	男女共同参画推進課
<p align="center"><b>事業名</b></p> <p>ワーク・ライフ・バランス推進事業</p>					課長名	櫻江
					<p align="center">施策番号</p> <p>I - 1 - (1) - ①</p>	
<p><b>事業概要</b></p> <p>誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、企業等の取組み支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進を図ります。</p>					<p><b>事業手法</b></p> <p> <input type="checkbox"/> 直営    <input type="checkbox"/> 補助金  <input type="checkbox"/> 全部委託    <input type="checkbox"/> 負担金  <input type="checkbox"/> 一部委託    <input type="checkbox"/> 指定管理  <input type="checkbox"/> その他                  ( )             </p>	
<p><b>コスト</b></p>	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人
		15,891 千円	13,349 千円		11,050 千円	係長 0.50 人 職員 0.50 人

**【Action】改善**

<p><b>課題</b></p> <p>H23年度の評価結果を受けての課題</p>	<p>「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、市民等の理解をさらに進める必要があります。</p>	<p><b>見直し内容</b></p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に関係機関がさらに連携・協働して、講演会の開催や推進キャンペーン等を実施し、市民や企業等にワーク・ライフ・バランスを働きかけていきます。</p>
---	--	---

**【Plan】計画**

**【Do】実施 → 【Check】評価**

<p><b>目的</b></p> <p>対象(誰を、何を)</p> <p>市民や企業等</p>	<p><b>目指す状態</b>(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)</p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、ワーク・ライフ・バランスの推進及び実践に向けた企業等の取組支援や啓発事業等を行うことにより、誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現できるようにします。</p>	<p><b>成果の状況</b></p> <p>代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック</p>	<p align="center"><b>順調</b></p>
<p><b>代表的な成果指標</b></p> <p>子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合</p> <p>仕事と生活のバランスについて、両立が図られていると感じる人が少なく、ワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。</p> <p>(最終目標と目標年度)増加(26年度)</p>	<p>上段: 23年度実績 下段: 24年度実績</p> <p>30.3 %</p> <p>29.8 %</p>	<p><b>25年度目標</b></p> <p>前年度比増加</p>	<p><b>25年度実績(達成率)</b></p> <p>28.2 %</p> <p>%</p> <p>%</p>
<p>(最終目標と目標年度)</p>			<p><b>成果の状況評価理由</b></p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に様々な取組みを行った結果、両立が図られていると感じている人は、やや減少していますが、活動指標の目標も達成され、成果も表れていることから、順調としました。</p>

<p><b>活動計画</b></p> <p>どうやって目的を達成するか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を開催します。</li> <li>・企業向け講演会やアドバイザー派遣などによる企業等に対する働きかけを行います。</li> <li>・従業員向け広報啓発やワーク・ライフ・バランス表彰の実施を市内企業や事業所に呼びかけます。</li> <li>・ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンなどによる広報啓発事業を実施します。</li> </ul>	<p><b>活動の状況</b></p> <p>活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック</p>	<p align="center"><b>順調</b></p>	
<p><b>活動指標</b></p> <p>北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数(累計)</p> <p>ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業等を表彰し、事例集等で広く紹介することが、企業等における取組みの支援・促進につながることから、活動指標として掲げました。</p> <p>北九州市ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣回数</p> <p>新たにワーク・ライフ・バランスに取り組もうとする事業者やその充実を図ろうとする事業者等に対し、アドバイザーを派遣することで、ワーク・ライフ・バランスの推進につながることから、活動指標として掲げました。</p>	<p>上段: 23年度実績 下段: 24年度実績</p> <p>31 社(人)</p> <p>40 社(人)</p> <p>11 回</p> <p>10 回</p>	<p><b>25年度目標</b></p> <p>45 社(人)</p> <p>前年度比同程度</p>	<p><b>25年度実績(達成率)</b></p> <p>45 社(人)</p> <p>100.0 %</p> <p>22 回</p> <p>220.0 %</p>
			<p><b>活動の状況評価理由</b></p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰」について、受賞者数は目標に達しており、アドバイザー派遣についても、派遣回数が増加するなど、企業等においてワーク・ライフ・バランスの認識が高まったことがうかがえることから順調としました。</p>

**【Check】評価(分析)**

<p><b>分析及び課題の整理</b></p> <p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p>	<p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、11月の推進キャンペーン、企業向け講演会の開催やアドバイザーの派遣を行いました。また、「子ども参観日」の実施を市内企業・事業所に呼びかけ、子育てしながら働きやすい職場環境づくりの推進に努めました。このように市民や企業等へワーク・ライフ・バランスの取組みを働きかけた結果、北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数は目標に達し、推進アドバイザー派遣回数も増加したことから、順調と考えています。</p>
<p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>	<p>行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取り組むことにより、効率的にそれぞれの立場から、地域や個人(家庭)等に直接働きかけていきました。また、企業向け講演会については、アジア女性会議と共催することにより、広く市民や企業にワーク・ライフ・バランスについて啓発することができました。</p>

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局
担当課	子育て支援課
課長名	宮崎

事業概要											
事業名	放課後児童健全育成事業					施策番号					
						I - 1 - (1) - ①					
事業概要	市民ニーズに応えられる放課後児童クラブの運営内容を確保するため、研修会の実施、運営マニュアルの作成、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、全児童化により、受け入れが増加する高学年児童や障害のある子どもへの対応が適切に行えるよう、指導員の資質向上を図ります。そのため、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある子どもなどの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
							コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)
		1,415,159 千円	1,362,919 千円			35,025 千円					

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	放課後児童クラブの利用に関する満足度は8割超と高水準を維持していますが、障害児等を含め利用児童は増加傾向にあります。このため、指導員の資質の向上を図るため、研修の実施や、巡回カウンセラー等の派遣指導への取り組みが必要です。また、開設時間が18時30分以降になっていないクラブも残っており、引き続き標準化に向けた取り組みが必要です。	見直し内容	適切な指導員の配置が行えるようにするとともに、指導員の資質向上を図るための研修等の実施や、開設時間の標準化に向けた取り組みを行い、運営の基盤整備を進めていくため、事業費は現状を維持していきます。
----	-------------------	---	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	放課後児童クラブ	障害のある児童等を含め利用を希望する児童を受け入れるとともに、児童への対応を適切に行うなど、市民ニーズに応えられるよう運営体制が充実した状態を目指します。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由		
	放課後児童クラブに対する満足度(利用日、利用時間)	81.5 %	前年度比 向上	80.0 %			
	クラブごとに開設日や開設時間などの運営状況が異なる中、市民ニーズの多様化への対応を示す指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	77.8 %		— %			
	(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	指導員の資質向上を図るための研修の充実や、臨床心理士、アドバイザーをクラブに派遣し、指導員に助言等を行います。また、各クラブの運営における工夫した取り組みを他クラブに紹介し、指導員相互の交流や情報交換を促進します。他に、開設時間の標準化にも引き続き取り組みます。	障害のある児童等を含め利用を希望する児童を受け入れるとともに、児童への対応を適切に行うなど、市民ニーズに応えられるよう運営体制が充実した状態を目指します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由		
	18時30分以降まで開設している放課後児童クラブの割合	96.8 %	前年度比 向上	99.5 %			
	開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質の向上を図ることが放課後児童クラブに対する様々なニーズへの対応につながるため、活動指標として掲げました。	97.9 %		— %			
	障害のある児童の受入	229 人	障害児の 受入促進	283 人			
研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ることが、受入が増加する障害のある児童への適切な対応につながるため、活動指標として掲げました。	245 人	— %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	指導員を対象にした研修においては、研修の受講だけでなく、受講後のフォローアップ効果を向上させるため、研修時のポイントをまとめた「研修だより」を発行しました。また、臨床心理士等の派遣も今年度で3年目を迎えたことから、各クラブの実情に即した助言等を行うことができました。こうした取り組みの結果、障害児への理解が進み、児童の受入が促進されていることから、活動の状況は順調としました。 成果の状況についても、アンケート結果における満足度(利用日、利用時間)が向上しており、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	障害児の受入に関しては、市に臨床心理士、アドバイザーという専門家を設置(雇用)し、クラブのニーズに応じて派遣して、指導員の助言等を行うことから、各クラブで専門職を設置する場合に比べて、低コストで効率的な取り組みと考えています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局
担当課	保育課
課長名	田中・本脇
施策番号	
I - 1 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	(人件費備考)

事業概要				
事業名	保育所運営事業			
	事業概要 仕事と子育ての両立支援を推進するため、保育に欠ける子どもは誰でも保育所に入所でき、多様なニーズに応えながら、子どもの健やかな育成を支援する保育サービスの実現を図ります。			
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費
	14,340,689 千円	14,166,773 千円		目安の金額
				課長 0.20 人
				係長 0.20 人
				職員 0.20 人

## 【Action】改善

課題	見直し内容
H23年度の評価結果を受けての課題	年度当初の待機児童は0人となっているが、一部地区では、年度中途から待機児童が生じており、年間を通じた待機児童の解消に取り組む必要があります。 今後の就学前児童数の動向や、保護者の就労希望の動向を踏まえながら、既存保育所入所定員の見直し等を図る必要があります。

## 【Plan】計画      【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	評価	
	待機児童	保育に欠ける子どもは誰でも保育所に入所できるよう、年間を通じた待機児童の解消を目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
代表的な成果指標	指標	25年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績			
	待機児童数(年度当初:4月)	0 人	0 人	0 人	年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。
	現在、年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。今後もこれを維持していくため、成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 年度当初の待機児童「0人」を維持(平成26年度)	0 人	0 人	100.0 %	
待機児童数(年度中途:10月)	67 人	0 人	220 人		
一部地区では、年度中途から待機児童が生じています。保育需要は、今後も増加すると考えており、年間を通じた待機児童の解消を成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 年間を通じた待機児童の解消(平成26年度)	116 人	0 人	— %		

活動計画	活動の状況	評価			
どうやって目的を達成するか 保育に欠ける子どもは誰でも保育所に入所できるよう、民間保育所の新規開設や既存保育所の定員増などを行い、年間を通じた待機児童の解消と、年度当初における定員超過入所の状況の解消を目指します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調			
活動指標	指標	25年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績			
	保育所入所定員の拡大	110 人	137 人	137 人	計画的に既存保育所の増改築や入所定員の見直し等により入所定員を拡大しています。
	民間保育所の新規開設や既存保育所の定員増を図り、入所定員を拡大します。	235 人	137 人	100.0 %	
			%		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当初予定していた2施設の民間保育所の増改築を行いました。 この結果、現在、年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	福岡県の「安心子ども基金」を活用して事業を実施しています。(市負担:1/12) また、新規開設の保育所は、全て民間保育所を対象にしています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	保育課
<b>事業名</b> 特別保育事業補助					課長名	本脇
					施策番号	
<b>事業概要</b>	保護者の就労形態の多様化等に対応するため、保育所の保育時間を午後7時もしくは8時まで延長する「延長保育」の充実を図ります。また、保護者のパート就労や冠婚葬祭、および育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育する「一時保育」の充実を図ります。さらに、保育所の通常保育に加え、延長保育や一時保育においても、統合保育の可能な障害のある児童の受け入れを行う「障害児保育」の充実を図ります。				<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>コスト</b>	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		人件費
	1,464,763 千円	1,326,727 千円			3,650 千円	(人件費備考)

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	成果指標として設定した「保育所に対する満足度(保育内容)」は、高い割合で推移しています。社会経済状況の変化や保護者の就労形態の多様化等に伴い、子育て環境は変化しており、保育所特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズも刻々と変化していくため、これに対応していくことが必要です。	<b>見直し内容</b>	成果指標である「保育所に対する満足度(保育内容)」の更なる向上を目指し、特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズの変化などの状況把握に努め、利用可能施設を拡充していきます。
-----------	-------------------	---	--------------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	<b>順調</b>
	児童および保護者	保育所の特別保育事業の拡充および質の向上を図ることで、安全安心な子育て環境を整備し、安心して働き、子育てできる社会を実現します。また、障害のある児童を含め、子どもの福祉向上を図ります。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	保育所に対する満足度(保育内容)	81.0 %	平成24年度(86%)の水準を維持もしくは向上	78.5 %	保育所に対する満足度は、昨年度より減少していますが、依然高い割合で推移しています。また、多様な保育ニーズに対応するため、延長保育や一時保育を平成25年度に新たに4箇所で開催するとともに、障害児保育については、引き続き全保育所において受け入れが可能な状況の中、109所で受け入れを行いました。以上のことから、成果の状況はほぼ順調に推移していると判断しました。
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みに対する成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)向上(平成26年度)	86.0 %		— %	
(最終目標と目標年度)			%		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	引き続き、延長保育実施施設数および一時保育実施施設数を増やすことで、活動指標で定めた目標数を達成します。障害児保育については、既に統合保育が可能な障害児の受け入れを全保育所で取り組むと同時に、直営保育所においては、統合保育が可能な重度障害児の受け入れも行っていきます。また、延長保育および一時保育における、障害児保育の実施率の向上にも努めていきます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	<b>順調</b>
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	延長保育を実施する保育所の施設数	142 所	148 所	148 所	「元気発進！子どもプラン」に基づき、目標値に向けて確実に実施施設数を増やしており多様な保育サービスを幅広く展開できていることから目標達成しているといえます。
	保育所の新設や公立民営化に伴う延長保育の実施、既存保育所の新規実施により、延長保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながることから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン」に基づく)	144 所		100.0 %	
	一時保育を実施する保育所の施設数	59 所	67 所	67 所	
保育所の新設や改築により、一時保育室を設置するなどして、一時保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながるから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン」に基づく)	63 所		100.0 %		

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成25年度は、延長保育事業(1時間延長)の実施施設を4所増設し、合計148所で延長保育を実施しました。平成25年度の延べ利用児童数は、17,925人であり、多様化する就労形態への対応として高い効果があります。また、一時保育事業の実施施設を4所で新規開設し、全67所において実施しました。平成25年度の延べ利用児童数は、23,908人であり、一時的な就労等多様化する就労形態の対応や、専業主婦の育児リフレッシュの対応等について高い効果があります。障害児保育については、平成26年3月1日現在、109所で322名の障害児を受け入れました。直営保育所では、重度障害児18名を受け入れました。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、かつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、今後も障害児保育のニーズは高まると予想され、有効性は高いと思われます。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	延長保育、一時保育については、国の補助を活用しながら効果的に事業を実施しています。障害児保育については、現在は障害児数に応じた職員配置保育士やパート保育士で行っており、効率性は高いといえます。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局						
担当課	保育課						
課長名	本脇						
施策番号							
I - 1 - (1) - ②							
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金						
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金						
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理						
	<input type="checkbox"/> その他						
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.10 人
事業費	114,603 千円	101,669 千円			2,900 千円	係長	0.10 人
						職員	0.10 人
							(人件費備考)

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年8月に1箇所新規開設し、計9箇所で開催を実施しました。利用児童数は前年度に比べてほぼ横ばいで推移しており、有効性は依然として高い傾向にあります。特に、利用ニーズの高い地域において、施設の新設の必要があります。しかしながら、当該事業は、北九州市医師会の協力のもと、診療科目に小児科を掲げている医療機関を委託先としていますが、対象に限られるため実施施設の選定に時間を要することが課題です。	見直し内容	医療機関等に対して当該事業の内容を分かりやすく説明できるように新たに作成した資料を用いることにより、八幡西区や小倉南区などでの開設に向けた調整を行います。新規開設分の経費については、施設の選定時に対応するため、次年度予算は現行ペースで維持します。
----	-------------------	---	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	保護者の勤務等やむを得ない事由により、家庭での保育が困難な病氣中、病氣回復期にある児童の保護者	病児・病後児保育室を利用することで、子育てと就労の両立が可能な状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	保育所に対する満足度(保育内容)	81.0 %	前年度比 向上	78.5 %	保育所に対する満足度は、昨年度より減少していますが、高い割合で推移しています。また、利用児童数は前年度比でほぼ横ばいであり、保護者のニーズが依然高い中、最終目標である市内11箇所での事業実施(平成26年度末)に向けて、平成26年度に新規開設を行う施設2箇所の選定を行いました。以上のことから、成果はほぼ順調に推移していると判断しました。
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(平成26年度)	86.0 %		- %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	利用ニーズの高い地域において、2箇所の新設を目指します。病児保育室併設の医療機関に加え、各保育所や幼稚園など、対象の保護者が利用する施設でパンフレットの配布やポスターを掲示します。また、市ホームページや市政だより等情報誌へ掲載するなど、効果的なPRにより、事業の認知度上昇を図り、対象者の利用促進につなげます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	病児・病後児保育事業を実施している施設の箇所数	9 箇所	9 箇所	9 箇所	当初の目標どおり、平成25年度中は現状(9箇所)で事業を継続しました。また、最終目標である市内11箇所での事業実施(平成26年度末)に向けて、平成26年度に新規開設を行う施設2箇所の選定を行いました。パンフレットやポスターなどの配布・掲示、情報誌等への事業掲載により、効果的なPRに取り組みました。以上のことから、活動は順調と判断しました。
	病児・病後児保育については、保護者ニーズは依然として高い傾向にあり、特に、ニーズの高い地域においては、施設の新設が必要であることから、活動指標としました。	9 箇所		100.0 %	
	病児・病後児保育事業の効果的なPR	-	効果的なPRの実施	-	
関係各施設へパンフレットやポスターの配布、ホームページ上での掲載、市政だより等情報誌への掲載など、効果的なPRを行うことが、病児・病後児保育事業の周知につながるから、活動指標として掲げました。	-		- %		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	病児・病後児保育事業の実施施設については、平成25年度中は現状維持(9箇所)とし、平成26年度以降の拡充に向け検討を行いました。「病児保育・病後児保育利用のてびき」やポスターを作成し、関係施設で配布・掲示を行いました。加えて、市ホームページ上に利用申請書類を掲載し、保護者が自宅ダウンロードできるようにしました。また、情報誌に利用案内を掲載することで、効果的なPRに努めました。9箇所で開催した病児・病後児保育事業を実施しましたが、利用児童数は前年度に比べ増加しており、保護者ニーズは依然高く、その有効性は高いと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	国の補助基準額を踏まえた委託料で所要の人員配置をしつつ、多忙な小児科医の自助努力により事業を実施している状況から、コスト削減は困難と考えます。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局								
担当課	保育課								
課長名	田中・本脇								
施策番号									
I - 1 - (1) - ②									
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金								
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金								
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理								
	<input type="checkbox"/> その他								
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人	係長 0.20 人	職員 0.20 人	(人件費備考)
事業費	14,340,689 千円	14,166,773 千円			5,800 千円				

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	年度当初の待機児童は0人となっているが、一部地区では、年度中途から待機児童が生じており、年間を通じた待機児童の解消に取り組む必要があります。	見直し内容	今後の就学前児童数の動向や、保護者の就労希望の動向を踏まえながら、既存保育所入所定員の見直し等を図る必要があります。
----	-------------------	--	-------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
代表的な成果指標	待機児童	保育に欠ける子どもは誰でも保育所に入所できるよう、年間を通じた待機児童の解消を目指します。	25年度実績	0 人	25年度実績 (達成率)	0 人
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	0 人	100.0 %	年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。
	待機児童数(年度当初:4月)	0 人	0 人	220 人	%	
	現在、年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。今後もこれを維持していくため、成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 年度当初の待機児童「0人」を維持(平成26年度)	0 人	0 人			
待機児童数(年度中途:10月)	67 人	0 人				
	一部地区では、年度中途から待機児童が生じています。保育需要は、今後も増加すると考えており、年間を通じた待機児童の解消を成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 年間を通じた待機児童の解消(平成26年度)	116 人				

活動計画	活動の状況	順調			
どうやって目的を達成するか	保育に欠ける子どもは誰でも保育所に入所できるよう、民間保育所の新規開設や既存保育所の定員増などを行い、年間を通じた待機児童の解消と、年度当初における定員超過入所の状況の解消を目指します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	保育所入所定員の拡大	110 人	137 人	137 人	計画的に既存保育所の増改築や入所定員の見直し等により入所定員を拡大しています。
	民間保育所の新規開設や既存保育所の定員増を図り、入所定員を拡大します。	235 人		100.0 %	
			%		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当初予定していた2施設の民間保育所の増改築を行いました。この結果、現在、年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	福岡県の「安心子ども基金」を活用して事業を実施しています。(市負担:1/12) また、新規開設の保育所は、全て民間保育所を対象にしています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局						
担当課	子育て支援課						
課長名	西尾						
施策番号							
I - 1 - (1) - ③							
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金						
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金						
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理						
	<input type="checkbox"/> その他						
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.01 人
事業費	1,013,798 千円	968,574 千円			3,615 千円	係長	0.05 人
						職員	0.40 人
							(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	妊婦が必要な回数(14回程度)の妊婦健康診査が受けられるよう、平成21年度から妊婦健康診査支援基金が創設され、国庫補助(1/2)と地方財政措置(1/2)により支援されていましたが、平成24年度末で、基金が終了することとなり、より恒常的な仕組みへの移行が、国において検討されています。平成24年度以降も妊婦健康診査の公費助成を継続できるよう、あらゆる機会を通して国に要望します。妊婦健康診査の公費助成回数拡充及び項目を追加し、健診の周知を図ったことで、妊娠早期から受診する人が増加しています。	見直し内容	母子健康診査は今後も継続します。母子健康診査について、母子手帳交付やさまざまな教室、地域での相談事業で周知することにより、より多くの母子が健康診査を活用できるよう働きかけます。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	妊産婦や乳幼児	妊娠期から育児中にわたる母子の健康づくり、育児不安などに対する専門的支援を柱として、当該事業を展開し、生涯を通じた母子保健に関する住民の健康づくりを行います。母子の健康確保や妊娠・出産・育児に必要な知識を提供するため、母子を対象とした健康教室の実施など保健指導を実施します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	91.8 %	前年度比 増加 %	93.4 %	妊娠早期である11週までの妊娠届出者の割合は前年度よりも増加しており順調と判断しました。
	母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、妊娠早期から妊婦健診を受診することが必要であるため、成果指標として掲げました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 100%(26年度)	91.9 %		— %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	妊婦健診の公費助成を14回行うとともに、受診勧奨を行うことで、受診率の向上を図ります。また、様々な機会を通じて妊婦健診を周知し、11週までの妊娠届出者数を増加させます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	妊婦健診受診率	98.5 %	前年度比 増加	95.5 %	妊婦健診の受診率はやや低下しましたが、3歳児健診のハガキによる受診勧奨をはじめ、さまざまな機会を捉えて受診勧奨しており、順調としました。
	母体の健康を保持し、安心して妊娠・出産するため、妊婦健診を受診することは必要であるため、活動指標として設定しました。	96.6 %		— %	
	3歳児健診受診率	89.9 %	前年度比 増加	91.8 %	
乳幼児の健康を保持し、健全な育成を促すために、乳幼児健診を受診することは必要であるため、活動指標として設定しました。	91.3 %	— %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	妊娠早期である11週までの妊娠届出者の割合は前年度よりも増加しており、届出時の無料受診券交付により早期から妊婦としての健康管理につながっている割合が増えていると評価しました。また、幼児健診の受診勧奨ハガキの送付や各乳幼児教室などで健診受診について勧奨しており、順調と判断しました。健診の結果を把握することにより必要なフォローアップも実施しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	関係機関等と協議して実施しているため、削減は困難です。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局							
担当課	子育て支援課							
課長名	宮崎							
施策番号								
I - 1 - (1) - ③								
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金							
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金							
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理							
	<input type="checkbox"/> その他							
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.10 人	(人件費備考)
事業費	2,640,299 千円	2,560,231 千円			係長	0.40 人		
					職員	0.80 人		

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	受給者数及び小・中学生の入院件数ともに目標通りであり、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えます。小・中学生の入院医療費の助成については、引き続き制度の周知を図る必要があります。	見直し内容	現行制度を継続して実施し、事業費についても、現状通りとします。
----	-------------------	--	-------	---------------------------------

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調	
	乳幼児等及びその保護者	乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図るため、乳幼児等の保険診療による医療費の自己負担額を助成します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	38.0 %	前年度比減少	30.5 %	
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	27.7 %		- %	
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	24.0 %	前年度比減少	31.6 %	
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	39.6 %	- %			

活動計画	活動の状況	順調			
どうやって目的を達成するか	現行制度を継続して実施するとともに、制度のあり方を検討します。				
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	医療費支給制度の維持	-		-	
	制度を維持し、子育てにかかる経済的負担を軽減することで、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、活動指標として設定しました。	-		- %	
				%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	制度を維持し、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えられることから、施策の効果は高いと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	保険診療による自己負担額を助成する制度であり、代替手段は考えられません。



# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	子育て支援課
<b>事業名</b> すくすく子育て支援事業					課長名	西尾
					施策番号	
<b>事業概要</b> 母子健康手帳の交付、妊産婦乳幼児なんでも相談、母親学級、両親学級、育児学級等の母子保健教室、乳幼児発達相談指導「わいわい子育て相談」、乳幼児健診未受診者フォロー事業(児童虐待予防事業)、その他母子保健に関する事業を実施します。	<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	コスト 事業費    25年度当初予算額    25年度執行額    (事業費備考)    人件費    目安の金額    課長 0.10 人 27,275 千円    24,709 千円    6,150 千円    係長 0.20 人    職員 0.40 人 (人件費備考)				

## 【Action】改善

<b>課題</b> H23年度の評価結果を受けての課題	母子の健康保持、子どもの健やかな発達を促すためには、妊娠・出産・育児に必要な知識を効率的に提供することが必要です。また、発達が気になる乳幼児が増加傾向にあり、早期支援の体制が求められていることから、関係機関との連携強化等が必要です。	<b>見直し内容</b> 情報を効率的に提供するため、母子健康手帳交付やその際の面接、妊娠中からの子育て支援や母子の健康支援のための保健指導や教室を継続実施します。発達に不安をもつ保護者への支援を検討し、親子遊び教室等を各区で実施するなど、効率的な事業の推進を図ります。
--------------------------------	--	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b> 対象(誰を、何を) 妊産婦や乳幼児	<b>目指す状態</b> (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 妊娠前から育児中にわたる母と子の健康づくり、育児不安などに対する専門的支援を柱として、当該事業を展開し、生涯を通じた母子保健に関する住民の健康づくりを行います。母子の健康確保や妊娠・出産・育児に必要な知識を提供するため、母子を対象とした健康教室の実施など保健指導を実施します。			<b>成果の状況</b> 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発達! 子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績 25年度目標 前年度比減少	25年度実績(達成率) 30.5 % — %		

<b>活動計画</b> どうやって目的を達成するか 母子健康手帳交付時から、子育てに関する情報を提供し、保健師等の専門職が相談に応じ、妊娠中からの継続した支援を行います。育児不安や就学前までに発達の気になる親子を対象にした教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。乳幼児の子育てや基本的な生活習慣等に関する知識の普及を図るため、土日開催や託児を設けるなど、開催方法を検討し、参加しやすい教室を実施します。	<b>活動の状況</b> 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
			<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 母親学級開催数 より多くの妊産婦やその家族に対して、妊娠・出産・育児に必要な知識の普及を図ることは重要であるため、活動指標として設定しました。 わいわい子育て相談の実施回数 発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要であるため、活動指標として設定しました。

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)は増加していますが、母子健康手帳交付時の個別面接をはじめ、さまざまな機会を捉えて、母子保健に関する相談・専門的支援や情報提供を行い、母子の健康づくりに寄与していることから、成果は順調と判断しました。母親学級は、出生数が減少していることや、就労する母親の増加、また、同様の教室を医療機関で開催している現状を踏まえ、内容や開催回数の見直しを行っています。父親も参加できる両親学級については土日に開催しており、いずれも希望する方への教室の提供はできていますと評価し順調としました。わいわい子育て相談については、区によっては相談待機者が出ることもありましたが、多くの専門職種が関わる事業につき、開催回数を増やすためには調整が必要で現状維持に留まりました。今後は回数の増加を含め工夫が必要です。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 子育て支援の分野については、母親学級や育児教室など知識提供型のものは医療機関をはじめ他機関が開催する事業も増えているため、地域の社会資源状況を把握のうえ、内容や量について検討していく必要があります。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	子育て支援課
のびのび赤ちゃん訪問事業					課長名	西尾
					施策番号	
事業概要	子育ての孤立化を防ぎ、乳児の健全な育成環境の確保を図るため、生後4か月までの乳児がいるすべての家庭を訪問することで、子育て情報の提供を行うとともに、さまざまな不安や悩みを聞き、支援が必要な家庭に対して適切な指導や支援、サービス提供に結びつけます。また、うつ状態等を早期に把握し、きめ細かに支援するため、全産婦に産後うつを早期に発見するための質問票を用いて、支援します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	事業費	25年度当初予算額 45,590 千円	25年度執行額 43,548 千円		(事業費備考)

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	要支援家庭を把握するためには訪問して面接することが必要です。対象家庭に訪問した結果、86%は実際に面接できています。面接できなかった家庭に対しても、その後の支援を行うことが必要です。	見直し内容	事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。また、医療機関との連携を強化し、対象家庭を早期に訪問するための体制について検討します。
----	-------------------	---	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	生後4か月の乳児のいるすべての家庭	子育ての孤立化を防ぎ、乳幼児の健全な育成環境の確保を図ることを目的に、生後4か月まで乳児がいるすべての家庭を訪問し、その居宅において、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供や、親子の心身の状況及び養育環境を把握し、助言を行うとともに、養育支援が必要な家庭に対し、専門的支援を行います。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	38.0 %	前年度比 減少	30.5 %	
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	27.7 %		— %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等でその居宅において面接して情報を提供します。また訪問により、養育支援の必要な家庭を把握し支援に繋がります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問の割合	84.8 %	前年度比 増加	88.9 %	
	全戸家庭訪問により、母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標に掲げました。	86.3 %		— %	
				%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	子どもの出生数は減少していますが、事業全体の訪問割合や子育て支援を必要とする家庭への保健師、助産師等の専門職による訪問数は増えています。また、地域支援者(主任児童委員)による地域に住む人ならではの情報提供や関わりも定着しており、専門職と地域支援者それぞれの強みを活かした活動が展開されていることから、成果及び活動の状況は順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	無償で活動している地域の主任児童員の協力のもと、現在のコストで事業を維持できています。出生数は減少しても、専門職の訪問対象である養育支援の必要な家庭は増加してきており、これ以上のコスト削減は困難です。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子ども家庭政策課
		課長名	猪本
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ④	
事業名	子育てに関する情報提供の充実・PR		
事業概要	子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できるように、情報誌の内容や、情報提供方法の充実を図ることにより、必要とされる子育てに関する情報が、市民に届く仕組みを構築します。また、本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データを盛り込んだ「子ども家庭レポート」を発行し、幅広く市民に周知することにより、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。		
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額
		2,500 千円	2,564 千円
		(事業費備考)	人件費
		目安の金額	課長 0.10 人
			係長 0.20 人
			職員 0.40 人
			(人件費備考)
			( )

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	情報誌「こそだて情報」を平成23年7月に51,000冊(その後600冊増刷)、平成24年7月に51,600冊発行し、保育所、幼稚園、親子ふれあいルーム、子どもの館、子育てふれあい交流プラザ、医師会、コンビニエンスストア等を通じ、また、母子健康手帳交付時に配付しました。また、子育てに関するホームページ「子育てマップ北九州」で子どもの成長に応じた情報を提供するとともに、希望者に毎月「子育て情報メール」の無料配信を行いました。「子育ての悩みや不安の解消」に向けた情報を保護者にタイムリーに提供できています。	見直し内容	「こそだて情報」の掲載内容・配布対象者の見直し及び広告ページ拡大を検討します。また、ホームページ「子育てマップ北九州」の掲載内容を見直し、経済的・効率的な情報提供に努めます。事業費は縮小しますが、引き続き、子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できるように、ホームページ「子育てマップ北九州」や「子育て情報メール」、情報誌「北九州市こそだて情報」の内容、情報提供の方法の充実を図ります。
----	-------------------	--	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	子育て中の保護者 市民	安心して子どもを産み育てることができるように、ホームページ、情報誌の内容、情報提供方法の充実を努めます。子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できる仕組みを構築し、子育ての不安や悩みの軽減を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	38.0 %	前年度比 減少	30.5 %	アンケート結果における子育ての悩みや不安を感じる人の割合について、就学前児童の保護者は微増していますが、ほぼ同じ水準で推移しています。一方、小学生の保護者は、8ポイント減少していることから、一定の評価を得ているといえます。また、子育て中の人やが求めるときに知りたい情報を手軽に入手できるように、ホームページや情報誌などを活用して子育てに関する情報提供を行うことができたことから、順調としました。
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	27.7 %		%	
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	24.0 %	前年度比 減少	31.6 %	
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	39.6 %	%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	ホームページ「子育てマップ北九州」での情報提供を行い、平成25年7月には子育て情報誌「こそだて情報」を作成・発行します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	子育てマップのアクセス件数	667,474 件	650,038 件	636,770 件	子育てマップのアクセス数は微減しましたが、子育ての悩みや不安の解消に向けた情報を保護者にタイムリーに提供できているため順調としました。
	より多くの市民に、必要とされる子育てに関する情報が届いているかを図る活動指標として設定します。	650,038 件		98.0 %	
	「こそだて情報」の発行	発行	発行	発行	
「こそだて情報」を発行することが、必要とされる子育てに関する情報を提供することにつながるため、活動指標として掲げました。	発行	—	%		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	1 平成25年9月に情報誌「こそだて情報」を51,600冊発行し、保育所、幼稚園、親子ふれあいルーム、子どもの館、子育てふれあい交流プラザ、医師会、コンビニエンスストア等を通じ、また、母子健康手帳交付時に配付しました。 2 子育てに関するホームページ「子育てマップ北九州」で子どもの成長に応じた情報を提供するとともに、希望者に毎月「子育て情報メール」の無料配信を行いました。 子育てマップのアクセス数は微減しましたが、子育て中の人やが求めるときに知りたい情報を手軽に入手できるように、ホームページや情報誌などを活用して子育てに関する情報提供を行いました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点	情報誌「こそだて情報」作成・配布にあたっては競争入札を行い、ホームページ「子育てマップ北九州」では指定管理者制度を導入し、経済的・効率的な情報提供に努めています。市の子育てに関する施策や施設の情報の取りまとめ等については、市のみが可能であり、実施主体としては市が適切であると考えます。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局						
担当課	子育て支援課						
課長名	宮崎						
施策番号							
I - 1 - (1) - ④							
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金						
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金						
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理						
	<input type="checkbox"/> その他						
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.10 人
事業費	33,322 千円	32,479 千円			7,275 千円	係長	0.35 人
						職員	0.35 人
							(人件費備考)

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成25年度からの新規契約(3年間)を機会に、現在の事業内容に新たな取り組み(地域の子育て支援団体等との連携など)を加え、事業内容の充実を図ります。なお、事業費については、現状を維持します。
----	-------------------	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調		
	乳幼児とその保護者	乳幼児を持つ保護者の子育てへの不安を軽減するため、親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができるスペースを既存の公共施設を活用しながら、区役所や児童館などで運営します。					
代表的な成果指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.9 %	前年度比増加	57.9 %	親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができる「親子ふれあいルーム」を継続して運営することで乳幼児を持つ保護者の子育てへの不安の軽減に寄与していると考えています。市民アンケートにおける「子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合」が微減していたり、「子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)」の割合が微増していたりしますが、ほぼ同じ水準で推移しているため、順調と判断しました。		
	地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	59.7 %				— %	
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	38.0 %	前年度比減少	30.5 %			
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	27.7 %	— %					

活動計画	どうやって目的を達成するか	区役所等7か所・児童館10か所での親子ふれあいルームの運営を実施します。親子ふれあいルームの利用促進を図るため、情報発信(PRチラシ作成、配布等)を実施します。親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
活動指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	親子ふれあいルーム利用者数(保護者)	25,327 人	単年度の目標設定はありません	26,571 人	平成25年度から、新たに「地域の子育て力を高める取り組み」を進めたため、順調としました。なお、利用者数(保護者)が前年度を下回りましたが、減少理由は、一箇所の親子ふれあいルームが移転し、その利用者数が減少したことが要因と考えられます。		
	親子ふれあいルームを利用することで、子育ての不安や悩みを軽減できると考えられるため、利用者数を活動指標として掲げました。	28,017 人				— %	
	市民センター等との情報交換実施件数	—	— 件	197 件			
市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と積極的に連携しネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組むため、平成25年度から情報交換を実施した件数を活動指標として掲げました。	—	— %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができる「親子ふれあいルーム」を7区の区役所(または近接した公共施設)、児童館10箇所で開催して運営し、乳幼児を持つ保護者の子育てへの不安の軽減に寄与したと考えられるため、成果は順調と判断しました。活動の状況は、平成25年度から市民センター等と連携し地域における子育て支援を行うため、新たに「地域の子育て力を高める取り組み」を進めたため、順調としました。なお、利用者数(保護者)が前年度を下回りましたが、減少理由は、一箇所の親子ふれあいルームが移転し、その利用者数が減少したことが要因と考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	親子ふれあいルームは、既存の公共施設を活用しています。運営については、公募により選考を行い、子育て支援活動の実績のある団体等へ委託し、民間活用を行っています。今後は、親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修を引き続き実施し、事業内容についての検討を行います。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	子育て支援課
<b>事業名</b> 子ども・家庭相談コーナー運営事業					課長名	西尾
					施策番号	
<b>事業概要</b>	各区役所に「子ども・家庭相談コーナー」を設置し、子どもと家庭に関するあらゆる相談をひとつの窓口で受け、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげています。				<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						コスト 事業費

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、関係機関との連携を図りながら総合的な相談窓口としての役割を担っていますが、子どもと家庭に関する相談は増加しているとともに複雑化しています。事業の実施にあたっては、計画的な研修を通じて相談員の資質の向上が必要です。	<b>見直し内容</b>	平成25年度の予算は現状維持ですが、年間を通じて計画的に行っている初任者研修、主務者研修、弁護士会との合同研修、事例検討会等に加え、子ども・家庭相談コーナーのニーズに応じた研修を新たに行うことにより、相談員の資質の向上を図り、あらゆる相談にきめ細かく対応していきます。
-----------	-------------------	--	--------------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	<b>順調</b>
<b>代表的な成果指標</b>	子どもや家庭等の悩みや不安を持つ相談者	「子ども・家庭相談コーナー」で、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図ります。			
	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	38.0 %	前年度比減少	30.5 %	アンケート結果における子育ての悩みや不安を感じる人の割合について、就学前児童の保護者は微増していますが、ほぼ同じ水準で推移しています。一方、小学生の保護者は、8ポイント減少していることから、一定の評価を得ているといえます。また、子ども・家庭相談コーナーでは、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、相談者の不安や負担の軽減を図っていることから順調としました。
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	27.7 %		- %	
子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	24.0 %	前年度比減少	31.6 %		
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	39.6 %		- %		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげ、総合的な相談窓口としての役割を担います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	<b>順調</b>
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	相談件数	76,648 件	-	76,801 件	相談件数は、やや減少しましたが、その相談内容は多様化しています。子ども・家庭相談コーナーでは、関係機関と連携して、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図っていることから順調としました。
	各区の「子ども・家庭相談コーナー」において、子ども・家庭相談員等が、来所、電話、訪問、手紙など、様々な形態による相談に応じています。その相談件数を活動指標として設定しました。	77,404 件		- %	
			%		

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】 【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	子どもと家庭をとりまく環境は変化しており、その相談は多様化・複雑化しています。子ども・家庭相談コーナーでは、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図るとともに、関係機関との連携により一定の成果をあげており、業務の適正な運営がなされています。また、相談員の資質の向上を図るため、年間を通じて計画的な研修を行うとともに、25年度は「子ども相談情報システム」の研修を新たに行いました。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	事業実施にあたり、計画的な研修を通じて相談員の資質の向上を図るなど効率的な運営をしています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	子ども家庭局	
						担当課	保育課	
						課長名	河瀬	
事業名	子育て支援総合コーディネーターの配置					施策番号		
						I - 1 - (1) - ④		
事業概要	「子育て支援サロン“びあちえーれ”」に子育て支援総合コーディネーターを配置し、面接、電話やメールによる子育てに関する相談の対応を行い、必要な関係機関との連携、調整等の支援を行います。 また、大学教授や小児科医、保育経験者等を講師に招き、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした育児講座の開催や絵本の貸出しを行い、子育て支援の充実を図っています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
							コスト	事業費

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談や関係機関との連絡・調整を行っています。しかし、子育ての悩みや不安を感じる人の割合は目標にやや遅れているため、子育て支援サロン“びあちえーれ”の認知度を上げていく必要があります。	見直し内容	子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談に応じ、利用者に必要な関係機関との連携、調整を行います。事業費は維持しながら、子育て支援サロン“びあちえーれ”の認知度を上げていくため、子育て関連の各種行事や会議に積極的に参加し、PRを行います。

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	子育て中の保護者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	子育てに悩む保護者の思いを傾聴することで、不安をとりのぞき、子どもの育ちを支えていきます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)減少(平成26年度)	上段:23年度実績 下段:24年度実績 38.0 % 27.7 %	25年度目標 前年度比減少 24.0 % 39.6 %	25年度実績(達成率) 30.5 % - % 31.6 % - %	成果の状況 評価理由 アンケート結果における子育ての悩みや不安を感じる人の割合について、就学前児童の保護者は微増していますが、ほぼ同じ水準で推移しています。一方、小学生の保護者は、8ポイント減少していることから、一定の評価を得ているといえます。 また、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした食育講座の開催や相談事業、関係機関との連携、調整など、保護者の不安を軽減する取組を行いました。 以上のことから、成果の状況は順調に推移していると、判断しました。	

活動計画	どうやって目的を達成するか	市において、北九州市保育所連盟と委託契約を締結し、保育士等により構成された子育て支援コーディネーター3名を配置して子育てに関する相談への対応や各関係機関との連携、コーディネート業務等を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) コーディネーターの配置人数 子育て支援サロン“びあちえーれ”において、子育ての悩み等相談に適切に応じるには、コーディネーターの確保が必要なことから、活動指標としました。 育児講座の実施回数 大学教授や小児科医、保育経験者等を講師に招き、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした育児講座の開催を受講することで、子育ての悩みや不安の解消の一助につながると考え、活動指標にしました。	上段:23年度実績 下段:24年度実績 3 名 3 名 10 回 10 回	25年度目標 3 名 10 回	25年度実績(達成率) 3 名 100.0 % 10 回 100.0 %

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	「子育てふれあい交流プラザ」内の子育て支援サロン“びあちえーれ”において、子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談に応じ、利用者に必要な関係機関との連携、調整等を行います。また、大学教授や小児科医、保育経験者等を講師に招き、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした育児講座の開催や、絵本の貸し出しを行い、子育て支援の充実を図りました。子育てに関する相談は、電話相談1180件、面接相談830件、メール相談139件あり、利用者に必要な関係機関との連携、調整等も行い、常に情報収集にも努めています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	限られた予算で事業を展開しており、施設内での育児講座や貸し出し図書、玩具の購入、リーフレットの作成などを通して事業の周知を図り、効率的な運営をしています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	子育て支援課
事業名 母子福祉センター運営委託					課長名	西尾
					施策番号 I - 1 - (1) - ⑤	
事業概要 「母子福祉センター」は、ひとり親家庭や寡婦の生活上の悩みや相談を受けたり、仕事のために必要な知識や技能を身につけるための講座等を無料で行っています。その他各種研修会や催し等を行い、ひとり親家庭等の生活の安定、福祉の向上を目指しています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
					コスト	事業費
					(人件費備考)	

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	母子福祉センターの利用者数は、昨年度より増加したものの、講座の受講者数が減少し、認知度も下がっています。そのため、講座の充実、ひとり親家庭のための合同就職説明会やひとり親家庭のガイドブックなどで周知を図る必要があります。さらに、就業支援の強化を図るため、相談員に専門職(キャリアカウンセラー)を配置し、母子自立支援プログラム策定事業に取り組む必要があります。	見直し内容	事業費は現状どおりですが、講座の変更、期間、時期、時間帯など講座内容の見直しを図ります。また、様々な機会を通じて母子福祉センターをPRし認知度を上げるよう努めます。
----	-------------------	---	-------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	ひとり親家庭の親と寡婦	「母子福祉センター」において、各種相談事業、自立促進のための各種講座や就職相談会などを実施し、母子家庭等の総合的な福祉の向上を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	母子福祉センターにおける講座等の受講者延べ人数	3,932 人	—	4,871 人	就業支援講習会の講座受講者数は、目標には達していないものの、毎年、講座の内容等を見直したことにより、受講者は年々増加していることから順調としました。
	ひとり親家庭が自立し、安定した生活を営むためには、就業により収入を安定的に確保する必要があります。よって、この就業を支援する施策の利用数の増加を成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 6,000人(26年度)	4,486 人		%	
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター)	72.7 %	前年度比 減少	62.1 %	
自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	67.9 %	— %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	ひとり親家庭等の様々な相談に応じるとともに、生活指導や技能習得のための講座の開催、就職の援助等を行い、生活の安定や福祉の向上に努めます。また、就業支援の充実を図るため、母子福祉センターの就業支援員に専門職(キャリアカウンセラー)を配置して行っている自立支援プログラム策定事業をPRし、事業による就業者の増加を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	母子福祉センターの利用者数	7,931 人	—	10,011 人	就業支援講習会の受講者等の増加により、母子福祉センターの利用者は、年々増加していることから順調としました。
	母子福祉センターは、相談事業や就業支援事業等を行い、母子福祉を総合的に推進する拠点施設であることから、その利用者数を活動指標としました。	8,783 人		— %	
				%	
			%		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	一般・特別相談(1,764人)、就業支援講習会(407回開催、延べ4,871人受講)、生活指導(393人)等を実施しました。就業支援講習会は、講座の内容等を見直すことにより、前年度より385人受講者が増加しました。専門職(キャリアカウンセラー)による自立・就業支援の結果、母子自立支援プログラム策定件数とそれによる就職者は、ともに前年度より増加しました。(策定:199人 41%増、就職:122人 56%増) このようなことから、25年度の母子福祉センターの利用者数は10,011人となり、前年度より1,228人増加し、この5年間で初めて最終目標を上回りました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	指定管理者制度により、コストの削減に努めています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	子ども家庭局
				担当課	子育て支援課
				課長名	西尾
事業名	児童養護施設等措置費			施策番号	
				I - 1 - (1) - ⑤	
事業概要	児童養護施設・乳児院・情緒障害児短期治療施設・自立支援施設・ファミリーホーム・里親において、保護を要する児童に係る必要な経費を負担します。その費用の中で、①児童養護施設・乳児院の各施設にて、家庭的な環境の中で職員との個別的な関係を重視したケアを提供するため、小規模なグループ(原則6~8名)によるケア、②施設を退所し就職する児童に対し、相談その他日常生活上の援助及び生活指導の支援を行い、社会的自立の促進に寄与する自立援助ホームの運営、③家庭的養護を促進するため、養育者の住宅を利用し、基本的な生活習慣を確立するとともに児童の自立を支援するファミリーホームを普及・推進、④児童養護施設等入所児童に温かい家庭生活を体験させ、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進する家庭生活体験事業を実施します。			事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					コスト
	1,782,000 千円	1,720,627 千円		12,825 千円	(人件費備考)

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	成果指標、活動指標ともに、順調に推移しています。今後も事業を継続しながら、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立等の支援を行っていく必要があります。	見直し内容	小規模グループケアの増設等を行うとともに、引き継ぎ、小規模グループケアの運営、自立援助ホームの運営、ファミリーホームの普及・促進、家庭生活体験事業等を実施します。
----	-------------------	---	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	措置(委託)児童の生活環境	社会的養護が必要な子どもが、それぞれの子どもにあった生活環境で、健やかにたくましく自立できるよう、児童養護施設等における各種事業を推進します。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由		
	児童養護施設における生活環境整備等の促進	—	生活環境整備等の促進	—	乳児院において、分園型小規模グループケアを開始したところ、対象児童に落ち着きが見られるなど家庭的養護の効果が出ていることから、順調としました。		
	児童養護施設において、家庭的養護を推進するための小規模グループケアや地域小規模児童養護施設の新設を進めるとともに、職員の資質向上等を図るなど、子どもたちへの支援をさらに充実させます。しかしながら、数値化することは困難です。 (最終目標と目標年度)	—		— %			
	(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	社会的養護が必要な子どもが、それぞれの子どもにあった生活環境で、健やかにたくましく自立できるよう、児童養護施設等における各種事業を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	小規模グループケア実施箇所数	10 ヶ所	単年度の目標設定はありません	11 ヶ所	小規模グループケアについては、新設は行わず現状維持となりました。児童の自立については、自立援助ホームから7人の児童が自立していることから、順調としました。
	国の要綱に基づき、1施設2グループケアまで指定できることから、市内7施設で14か所の設置を指標としました。	11 ヶ所		— %	
	就職等自立児童数	4 人	—	7 人	
就職もしくは大学進学を進めるとともに、自立資金の貯蓄や正しい生活習慣を身につけさせるなど、自立に向けた準備を整えて卒園させる必要があります。しかし、児童の状況に応じた支援であることから、目標の設定は困難です。	10 人	— %			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	乳児院において、分園型小規模グループケアを開始したところ、対象児童に落ち着きが見られるなど家庭的養護の効果が出ています。また、地域小規模児童養護施設の新設に関して、各施設に必要な人員配置・設備などの検討を行いました。自立援助ホームからは自立が順調に進んでいます。今後も、社会的養護が必要な子どもがそれぞれの子どもにあった生活環境で健やかにたくましく自立できるよう児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立等の支援を行っていく必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	児童養護に携わる職員の質の向上のため、職員は様々な研修を受講しています。社会的養護が必要な児童が専門性の高い職員を受け、自立に向けた支援制度を活用することで、より児童の希望に沿った自立へとつながることができるため、効率性は高いと考えます。



# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局
担当課	保育課
課長名	重谷
施策番号	
I - 1 - (1) - ⑤	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	(人件費備考)

## 事業概要

事業名	親子通園事業			
事業概要	幼児期の子どもの発達や育児に関して、不安や孤独感を抱えている保護者にとっては、思いを共有し、気兼ねなく安心して親子で過ごせる場所を提供する等、伴走型の支援が必要です。あそびや体験等を通じて、子育ての楽しさや成長の喜びを保護者が感じられるよう保育所での継続した支援、相談を行います。			
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費
	3,150 千円	1,431 千円		
			目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.20 人
			4,650 千円	

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	区役所、直営保育所の職員間の連携を強化し、親子通園を実施していない区の関連機関へのネットワークの拡大、充実を行います。ホームページ、市政だより、チラシなどの市民への情報発信に努めます。利用者のための駐車場を確保することで、より利用しやすい環境を整備するため、予算を拡充します。
	小倉北区・八幡西区以外の区内の親子通園の増設(1ヶ所)に加え、区役所、直営保育所の職員間の業務の引継ぎや、よりきめ細かい支援を行うためのネットワークの構築、現在の親子通園実施園から離れている地域の利用希望者への対応、市民への情報発信についての検討が必要です。		

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	発達の気になる子どもと保護者	直営保育所で「親子通園クラス」を運営し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	保育所に対する満足度(保育内容)	81.0 %	前年度比 向上	78.5 %	保育所に対する満足度は下がったものの、親子通園事業実施の2ヶ所については、関係機関と連携した移行支援や保育所でのあそびや体験、相談を通じた伴走型支援が継続的に行われていることから、順調としました。
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)向上(平成26年度)	86.0 %		- %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラス運営し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	親子通園クラスの利用者数	104 組	200 組	217 組	利用者数は減少しているものの、目標数を上回る結果となりました。また、区役所、関連機関へのネットワークの拡大、充実ができ、利用者数が安定してきていることから順調としました。
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。	269 組		108.5 %	
				%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	小倉北区東篠崎保育所と八幡西区黒崎保育所の親子通園クラスで、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ127組、東篠崎保育所は延べ90組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も62%を超え、移行支援としての成果も出ています。全国的に先駆けた事業です。
		直営保育所の経営資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	子ども家庭局
						担当課	子ども総合センター
<b>事業名</b> 児童虐待防止(子どもの人権擁護)推進事業						課長名	山田
						施策番号	
<b>事業概要</b> 児童虐待の早期発見及び被虐待児童の迅速かつ適切な保護を行うため、関係機関との連携強化を図り、児童虐待の防止等のために必要な体制を整備するとともに、関係機関等の職員の研修及び広報活動を行います。						<b>事業手法</b>	
						<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
<b>コスト</b>	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.80 人
		16,710 千円	15,403 千円			33,200 千円	係長 0.90 人 職員 2.00 人

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	関係機関職員を対象にした「児童虐待対応リーダー養成研修」や市民や関係機関職員に対する「連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数は増加しています。今後も児童虐待の早期発見、早期対応等適切な支援ができるように、関係機関との連携を図りながら、対応することが必要です。	<b>見直し内容</b>	児童虐待通告のうち、虐待が認められた児童虐待対応件数の減少に取り組むため、今後とも、「児童虐待対応リーダー養成研修」等の研修・啓発を通じて、多くの関係者が協力しながら適切な対応ができるように、前年度並みの事業費で効率的に実施します。
-----------	-------------------	---	--------------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	児童虐待事案	児童虐待に関する啓発や研修を積極的に行うとともに、児童虐待の早期発見、早期対応に努め、事案の減少を目指します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	児童虐待対応件数		前年度比減少	380 件	児童虐待通告件数は、平成24年度452件から平成25年度547件と21%増加しています。これに対して、通告のうち児童虐待と認められた児童虐待対応件数は、平成24年度に比べ9.8%の増加に留まっています。また、対応件数が一昨年より増加したのは、昨年9月から対象児のきょうだい児もフォローするようになったためです。このことから、児童虐待の早期発見や早期対応など、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりが進んでいると考えられることから、順調としました。
	児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待対応件数の減少につながることから、成果指標にあげました。 (最終目標と目標年度) 減少 (26年度)	322 件		— %	
		346 件			
(最終目標と目標年度)			%		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	児童虐待相談対応体制の強化を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	児童虐待問題連続講座の参加者数		前年度比増加	304 人	「児童虐待問題連続講座」や「児童虐待対応リーダー養成研修」などを実施した結果、児童虐待通告件数が、平成24年度452件から平成25年度547件と21%増加しています。また、関係機関との連携がより図れるようになり、早期発見、早期対応ができるようになったと思われる。
	市民や関係機関職員を対象にした「児童虐待問題連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数が増加したことから、参加者数を指標として掲げました。	266 人		— %	
	児童虐待対応リーダー養成研修の参加者数	257 人			
児童虐待の早期対応を図るため、保育所、学校等の職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を毎年実施しています。毎年対象施設が異なるため、参加者数も変動しますが、指標として掲げました。	154 人	—	177 人		
	242 人		— %		

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	関係機関職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」や市民や関係機関職員に対する「連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数は、平成24年度に比べ21%(平成25年度:547件)と大幅に増加しています。これに対して、通告のうち児童虐待と認められた児童虐待対応件数は、平成24年度に比べ9.8%(平成25年度:380件)の増加に留まっています。子どもプランの目標設定時(平成20年度374件)と比較すると若干増加していますが、「子ども虐待対応の手引き」の昨年度の改正で、対象児のきょうだい児もフォローするようになったためです。このことから、児童虐待の早期発見や早期対応など、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりが進んでいると考えられます。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	児童虐待に関する研修や啓発については、専門的な知識や経験が必要で、学識経験者等による講義に加え、一部研修では経験を積んだ職員が講師を行うなど、効果的かつ効率的に実施しています。 また児童虐待対応は関係法令上、区や児童相談所がケースマネジメントの主体とならざるを得ないことから、本市と福岡県弁護士会北九州支部との間において、本市職員が月1回無料で法律相談を受けられる協定書を締結し、法律面での能力向上にも努めています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	子育て支援課
<b>事業名</b> ほっと子育てふれあい事業					課長名	西尾
					施策番号	
<b>事業概要</b> 仕事の都合や子どもの軽い病気の時に、ボランティア組織「ほっと子育てふれあいセンター」の会員間で子どもの預かりや送迎など、子育て支援サービスの充実を図ります。					<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					コスト	事業費
				人件費		(人件費備考)

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	代表的な評価指標が各々増加し、概ね順調な成果ができています。今後も、安心して子育てと仕事を両立できるような環境づくりに資するとともに地域の子育て支援を行い、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上を図るために、ほっと子育てふれあい事業の充実を図ります。	見直し内容	従来の研修に加えて、子どもの栄養と食生活の講義を追加したり、活動中の事故0を目指した事例研修を行うなど研修内容の充実を図ることにより、安全で質の高いサービスの提供に努めます。

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	地域で子育ての援助を行いたい者と子育ての援助を受けたい者を組織化し、相互に援助できるよう支援することにより、安心して子育てと仕事を両立できるような環境づくりを支援します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.9 %	対前年比 増加	57.9 %	割合は前回より微減しているものの、6割近くの方は、地域の人に子育てが支えられていると感じています。また、提供会員数は増加しており、地域における子育ての一翼を担っていると判断されることから、順調としました。	
	地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	59.7 %		%		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	定期的な会員募集を行い、会員獲得に努めています。また、提供会員の基本研修、ステップアップ研修や会員相互の交流会活動を通じて、会員の資質向上を図っています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	提供(両方)会員の確保	2,370 人	前年度比 増加	2,745 人	
	援助活動の需要に対応するためには、提供会員の確保が必要なことから、活動指標に設定しました。	2,556 人		— %	
	研修会の実施	18 回	18 回	18 回	
安全で質の高いサービスの提供のためには、会員に対し子どもの心身の健康や事故の対応などの研修を行う必要があるため、活動指標に設定しました。	18 回	100.0 %			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は減少していますが、当該事業においては、提供会員数も順調に増加し、事故も発生していないことから、安全で質の高いサービスを提供できており、地域における子育ての一翼を担っていると判断されることから、順調としました。今後も、仕事の都合で保育所等への送迎ができない方や、急な用事のために子どもを預ける必要がある方等を援助し、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上に寄与することにより、十分な効果が得られていると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	会員の質の向上のため、子どもの心身の健康や事故の対応等の研修を行っています。研修内容や会員同士の交流会の充実を図ることにより、安全で質の高いサービスの提供に努めることとしており、効率性は高いと考えます。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局	
					担当課	子育て支援課	
<b>事業名</b> みんなの子育て・親育ち支援事業					課長名	宮崎	
					施策番号		I - 1 - (1) - ⑥
<b>事業概要</b>	未就学児の親同士の交流や子どもの遊び、体験活動、地域との交流、子育てについての勉強会など、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援します。特に、先進的な育児サークルの活動については、その内容を広くPRするなどの支援を行います。また、子ども連れでも自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援します。				<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金	
						<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金	
<b>コスト</b>	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		5,070 千円	4,888 千円			6,400 千円	係長 0.30 人 職員 0.30 人

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	<b>見直し内容</b>	引き続き、育児サークルや子育て支援者グループなどの「子育てに関わる団体」に活動支援として、団体へ活動経費を補助します。また、身近な地域での交流の場(フリースペース)や育児サークルについて調査を行い、その情報を発信し、利用の促進を図ります。さらに、地域づくりや子育てに関して豊富な経験・実績を有する地域支援アドバイザーを各地域に派遣し、「育児サークル」や「子育て支援者グループ」等の活動がより活発化するよう団体間のつなぎ役を担い、「子育てネットワーク」の構築を図ります。
-----------	-------------------	--------------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	子育てに係る団体等	未就学児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援します。また、子ども連れでも自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.9 %	前年度比 増加	57.9 %	
	地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	59.7 %			
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	38.0 %	前年度比 減少	30.5 %	
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	27.7 %				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	育児サークルや子育て支援者グループなどの「子育てに関わる団体」に活動経費を補助します。また、身近な地域での交流の場(フリースペース)や育児サークルについて調査を行い、その情報を発信し、利用の促進を図ります。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	子育てに関わる団体への補助件数	101 件	100 件	100 件	
	育児サークルや子育て支援者グループなどの「子育てに関わる団体」への財政的支援を行い、育児サークルの自主的活動や地域で行われる子育て支援活動を促し、子育ての不安や悩みを軽減する環境づくりを推進するため、補助件数を活動指標として掲げました。	100 件		100.0 %	
				%	

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況は、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は減少していますが、子育てに関わる団体への補助を、平成25年度も引き続き育児サークルだけではなく子育て支援者グループについて支援対象としたところ、申請団体数が108団体と前年度よりも増えていることから、本事業が「子育てに関わる団体」のニーズに沿ったものであると判断され、順調としました。活動の状況は、100団体に補助金を交付し、育児サークルの自主的活動や地域で行われる子育て支援活動を促進できたことから、大変順調としました。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	「子育てに関わる団体」の自主的活動をさらに活発化させるため、補助件数の増加など、支援内容について継続して検討していく必要があります。 なお、本事業は補助金の交付等により、「子育てに関わる団体」の活動を支援することから、実施主体としては市が適切であると考えます。

**P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)**

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	子ども家庭政策課
<b>事業名</b> 赤ちゃんの駅登録事業					課長名	猪本
					施策番号	
<b>事業概要</b> 官民が協力して、乳幼児を持つ保護者が外出した際、授乳やオムツ替えができる施設を「赤ちゃんの駅」として登録し、子育て中の親が安心して外出できる環境づくりを行います。					<b>事業手法</b> <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	事業費	25年度当初予算額 2,294 千円	25年度執行額 2,294 千円	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
					4,400 千円	係長 0.10 人 職員 0.30 人
					(人件費備考)	

**【Action】改善**

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度末の登録施設数が342施設になるなど、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりは大変順調に進んでいます。引き続き、登録施設数増や利用促進の取り組みが必要です。	<b>見直し内容</b>	「すくすく子育てフェスタ」を活用した「赤ちゃんの駅」の効率的なPR方法を検討することで、事業費を縮小しますが、平成25年度においても、登録施設数の増加に向けた協力依頼を行うとともに、「赤ちゃんの駅」の認知度向上や利用促進に向けたPR活動を行い、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。
-----------	-------------------	---	--------------	--

**【Plan】計画**

**【Do】実施 → 【Check】評価**

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	乳幼児を持つ保護者 民間事業者 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	安心して子どもを生み育てることができるように、乳幼児を持つ保護者が外出した際、授乳やおむつ替えができる施設を、「赤ちゃんの駅」として登録し、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。また、本事業については、公共施設だけではなく、民間事業者の協力も得るなど、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	<b>代表的な成果指標</b>	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.9 %	前年度比 増加	57.9 %	割合は前回より微減しているものの、6割近くの方は、地域の人に子育てが支えられていると感じていることから順調としました。		
	地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)増加(26年度)	59.7 %		%			
	(最終目標と目標年度)				%		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向けて、チラシ等を活用したPR活動を行うほか、「すくすく子育てフェスタ」会場でもPR活動を行います。登録施設には、利用者が気軽に立ち寄れるよう、目印となるステッカー等を目立つ場所に掲示します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
<b>活動指標</b>	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	「赤ちゃんの駅」登録施設数	342 施設	300 施設	353 施設	目標施設数を大幅に超える登録数であるため
「赤ちゃんの駅」登録施設数が増加することが、乳幼児を持つ保護者の利便性の向上につながるため、活動指標に掲げました。 (最終目標と目標年度) 300施設(26年度)	352 施設		117.7 %		
				%	

**【Check】評価(分析)**

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	「すくすく子育てフェスタ」会場でPRチラシと啓発グッズの配布、臨時赤ちゃんの駅を設置するなど、「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向けたPRを効果的に実施できたため、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充にあたっては、公共・民間施設を問わず、既存の施設を有効活用することとしており、経済的・効率的な登録施設の拡充に努めています。子育てしやすい環境づくりは市が主体で行うもので、市が積極的に関与する必要がありますが、「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充のため、民間活力の導入も検討していきます。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	青少年課
<b>事業名</b> 青少年ボランティアステーション推進事業					課長名	東田
					施策番号	
<b>事業概要</b>	社会の構成員としての規範意識や他者への思いやり等の豊かな人間性を育むとともに、社会性や協調性等を身に付けることができるよう、青少年が行うボランティア活動を支援・促進します。 ①ボランティア活動の推進: 青少年が参加できるボランティアプログラムの開発及び関係機関・団体等への働きかけを行います。 ②社会参加ボランティアの実施: 関係機関と連携しながら、ボランティア活動を通じた青少年の社会的自立を支援します。 ③リーダーの養成や登録: ボランティア活動の知識や実践力を育て、活動を支援できるリーダーの養成及び登録を行います。				<b>事業手法</b> <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	<b>コスト</b>	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	2,264 千円	1,893 千円		6,150 千円	(人件費備考)	

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	<b>見直し内容</b>	夏休みに見送りとなった小学生を対象にした「春休みのボランティア体験」で、新たなプログラム編成に努めます。また、高校の夏季講習等を考慮した事業計画を策定し、一人でも多くの青少年が参加しやすいプログラム実施を継続します。なお、実施にあたっては、事務の見直しなどの努力を行い、予算を縮小します。「減額」
-----------	-------------------	--------------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	<b>大変順調</b>
	青少年	青少年の健全育成に欠かすことができない様々な体験活動を通じ、青少年が社会の構成員として規範意識や社会性、協調性等を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年のボランティア活動を支援・促進します。また、ひきこもりや非行等の課題を抱える青少年の社会的自立を支援するため、社会参加ボランティアプログラムを実施します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	ボランティア体験活動者数(延べ人数)	5,339 人	3,000 人	6,342 人	
	青少年ボランティアステーションのコーディネートにより、ボランティア活動に取り組んだ小・中学生や高校生等の延べ人数が、本事業の活性化を図る一つの指標になると考え掲げました。最終目標は、「元気発進! 子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 3200人(26年度)	5,398 人		211.4 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	年間を通じて、ボランティア活動情報の提供と活動調整及び活動時の支援を行います。7～8月は、市内の小・中学生や高校生等を対象にした「夏休みの青少年ボランティア体験」を実施します。ボランティアという社会貢献に対する意識の醸成を重要と考え、児童や生徒を対象にした、広報・普及活動の一環として「ボランティア出前授業」を実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	<b>順調</b>	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	「ボランティア出前授業」参加児童・生徒数	417 人	500 人	435 人	
	規範意識や他者への思いやり等を高めることにつながるボランティア活動の意義について、市内の小・中学生やインターアクトクラブ等に所属する高校生等を対象にした「ボランティア出前授業」を実施し、広報・普及活動に取り組みます。	818 人		87.0 %	
				%	

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成25年度の「夏休みの青少年ボランティア体験」では、参加延べ人数は2,157人(昨年度+656人)となり、多くの参加を得ることができました。また、事業全体を通して、ボランティア活動に参加意欲の高い学校等の裾野も広がり、青少年に対して貴重な社会体験活動の機会や場の提供ができています。現代の青少年に不足しがちな様々な体験活動をボランティアを通して実施させる本事業は、豊かな社会性や規範意識を育む、また、持続可能なよりよい社会の実現等に向けた「人づくり」のためにも大変有効です。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成22年度から、夜宮青少年センター内にあった青少年ボランティアステーションの組織を、子ども家庭局青少年課に移管しました。そして、青少年課所管の様々な事業と連携して実施することにより、青少年ボランティアリーダーの養成等、効率的に事業を実施することができました。また、子ども・若者応援センターYELL等からの相談による自立支援、家庭裁判所等からの相談による立ち直り支援に向けた社会参加ボランティア活動も、関係機関や団体の協力と連携を図りながら実施することができています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局
担当課	青少年課
課長名	東田
施策番号	
I - 1 - (4) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	(人件費備考)
事業費	25年度当初予算額 34,000 千円
	25年度執行額 26,478 千円
	(事業費備考)
目安の金額	課長 1.00 人
	係長 0.50 人
	職員 1.25 人

事業概要			
事業名	「ユースステーション」運営費		
事業概要	中学生・高校生を中心とした若者の活動拠点となり、社会参加準備のためのさまざまな活動を体験することができる施設として「ユースステーション」の運営を行います。		
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)
	34,000 千円	26,478 千円	
			人件費
			目安の金額
			課長 1.00 人
			係長 0.50 人
			職員 1.25 人

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成25年4月2日に「北九州市立ユースステーション」はオープンしました。
	平成25年4月2日に「北九州市立ユースステーション」はオープンしました。		平成25年4月2日に「北九州市立ユースステーション」はオープンしました。

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調	
	中・高校生をはじめとする若者	学習や体験、スポーツ・文化活動、仲間との交流等を通じて、自己を発見し、社会性や自立性を身につけることを目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	青少年への社会体験活動等の機会や場の提供	—	青少年のニーズを把握し、機会や場の提供に努めます。	21 件	オープン初年度としては、施設の認知も進んでおり、順調と考えています。
	次世代を担う青少年が社会とのかかわりを自覚し、自己を確立・向上していけるよう、青少年に豊富な社会体験活動等の機会や場を提供します。 (最終目標と目標年度)青少年のニーズを把握し、機会や場の提供に努めます。	—		— %	
	若者による自主企画事業の数	—	自主企画事業ができるよう支援します。	3 件	
施設の特徴を生かした、若者による自主企画事業の増加に取り組みます。 (最終目標と目標年度)自主企画事業ができるよう支援します。	—		— %		

活動計画	活動の状況	順調			
どうやって目的を達成するか	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
中・高校生などの若者による運営委員会方式の企画や、各分野のボランティアや北九州ひとみらいプレイスの関係機関等とのネットワークの活用を進めます。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	若者向け事業への参加者数	—	若者への参加を呼びかけます。	914 人	オープン初年度としては、施設の認知も進んでおり、順調と考えています。
	関係機関等とのネットワークの活用等により、各種事業の数・質を高め、事業への参加者数の増加を図ります。	—		— %	
			%		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 平成25年4月2日にオープンし、年間で延べ63,794人の利用がありました。そのうち約80%が中学生・高校生の利用で、フリースペースや学習室、多目的ホールの利用が多く、仲間との交流等に役立っています。今後は施設主催の事業に加え、若者が積極的に自主事業をできるよう支援するとともに、施設ボランティア活動や施設運営に若者の意見を取り入れる仕組みづくりを行っていきます。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 現在市が直営で行っている施設運営を、青少年の健全育成などを行っているNPO等と連携を図り、事業コストの削減に努めます。また、指定管理者制度の導入に向けた検討を行います。

**PDCAチェックシート(平成25年度実績評価)**

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	青少年課
<b>事業名</b> 子ども・若者応援センター「YELL」の運営					課長名	東田
					施策番号	
<b>事業概要</b>	不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。 そのため、困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口『子ども・若者応援センター「YELL」』を開設し、自立を支援しています。				<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	<b>コスト</b>	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		人件費
	23,200 千円	22,614 千円			3,775 千円	(人件費備考)

**【Action】改善**

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度は、延べ相談件数が2,381件(来所1,120件、電話1,261件)、その内新規来所相談実人数は160人でしたが、相談機関へ未だ繋がっていない若者の存在が推測されること、また、相談・助言や専門機関の紹介だけでは若者の自立が進まないケースもあることが課題となっています。	<b>見直し内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に悩みや課題を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)しながら、相談機関へ繋がるための環境づくりについて検討します。</li> <li>相談事業に加え、コーディネーターを中心に、若者の自立に向けたステップアップに繋がるよう、相談者の自立度に合わせた体験プログラムの提供について検討します。</li> </ul>
-----------	-------------------	--	--------------	--

**【Plan】計画**

**【Do】実施 → 【Check】評価**

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	<b>順調</b>
	困難を抱えている子どもや若者	自身の抱える困難を解消し、円滑に社会生活を営めるようになることを目指します。					
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b> 平成25年度の子ども・若者応援センター「YELL」の延べ相談件数は2,366件で、新規来所相談実人数は122人でした。 悩みや課題を抱える122人の子ども・若者が、相談機関に繋がって支援を受けられるようになったことから順調と考えています。		
	社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている若者の割合	8.33 %	—	5.36 %			
	ニートやひきこもり、不安定な雇用形態等将来を見通せない不安の中、社会生活を円滑に営む上でさまざまな困難を抱えている若者の増加が社会問題となっています。このような現状の改善のため、若者の自立支援に取り組み、その成果をはかる指標として掲げました。	1.82 %		— %			
	(最終目標と目標年度) 平成22年度(7.37%)比減少(26年度)			%			

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口として、子ども・若者応援センター「YELL」を運営します。			<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	<b>順調</b>
	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>			
<b>活動指標</b>	来所・電話相談件数	2,381 件	—	2,366 件	<b>活動の状況評価理由</b> 平成25年度の子ども・若者応援センター「YELL」の延べ相談件数が2,366件(来所906件、電話1,460件)でした。 「YELL」により、一人ひとりの相談者に対する継続的な支援が行われていることから順調としました。		
	悩みや課題を抱える子ども・若者、その家族等を適切にサポートする活動指標として設定しました。	2,713 件		— %			
				%			

**【Check】評価(分析)**

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況については、平成25年度も122人の新規来所相談者があり、悩みや課題を抱える子どもや若者を相談機関である「YELL」へ繋ぐことができたため、順調と考えています。 また、活動の状況については、延べ相談件数や自立のステップアップのために必要な体験プログラムへの延べ参加者数(1,032人)の実績から、相談者に対して継続的な支援を行うことができていると、順調と考えています。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	運営業務を社会福祉法人へ委託し、経済的・効率的な運営を行っています。



# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	青少年課
「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業					課長名	東田
					施策番号	
「Ⅰ 非行防止対策」「Ⅱ 非行からの『立ち直り』支援」「Ⅲ 薬物乱用の防止と啓発」「Ⅳ 地域団体・関係機関との連携強化」の4つの柱をたて、就労支援の取り組みを強化するなど、青少年の非行防止施策を総合的かつ積極的に展開します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.30 人
		29,000 千円	20,554 千円		39,950 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人
					(人件費備考)	

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	青少年の非行防止、立ち直り支援、薬物乱用防止に関する各種施策は、関係行政機関、団体がそれぞれ個別に取り組んでいる状況を踏まえ、今後、各機関、団体が連携し、一体となって取り組む必要があります。	青少年の非行防止、立ち直り支援、薬物乱用防止に関わる関係行政機関、団体が構成する「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部において、各種施策を一体的に見直し、総合的かつ効果的に進めました。
----	-------------------	-------	---	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調		
	青少年	非行防止等に取り組む関係機関、団体の連携を図り、青少年が非行や犯罪を犯すことなく、また、加害者にも被害者にもならない地域づくりを進めます。また、非行や犯罪を犯しても、早期に立ち直ることができるような環境づくりに取り組みます。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	非行者率	統計なし	平成24年(12.7人)より減少	11.0 人	11.0 人 — %	
	10歳から19歳までの少年人口1,000人当たりに刑法犯少年が占める割合をいい、前年比減少を目指します。	12.7 人				
	(最終目標と目標年度) 前年比減少 30年					
再犯者率	統計なし	平成24年(39.3%)より減少	38.1 %	38.1 % — %		
犯罪少年検挙人員のうち、再犯者が占める割合をいい、前年比減少を目指します。	39.3 %					
(最終目標と目標年度) 前年比減少 30年						

活動計画	活動の状況	順調		
どうやって目的を達成するか 中学生を主な対象として、非行防止教室やメディアリテラシー教育の充実を図り、非行や犯罪被害の未然防止に対する意識を高めます。また、少年補導委員や青少年育成会、地域会議等、青少年の非行防止・健全育成に取り組む団体、また、協力雇用主会や保護司会等、非行からの立ち直りに取り組む団体の活動を支援します。さらに、非行の入り口と言われる深夜はいかひにに対する対策も強化します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		上段: 23年度実績 下段: 24年度実績		
非行防止教室等の参加者数	8,086 人	平成24年度(13,180人)と同水準	16,727 人	16,727 人 — % 3,882 回 — %
市立中学校の生徒を対象とした非行防止教室や、保護者や地域の方々を対象とした出前講演などを実施します。	13,180 人			
少年補導委員補導活動回数	3,391 回	平成24年度(3,453回)と同水準	3,882 回	
青少年を対象に補導活動を行う少年補導委員の補導活動件数を活動指標として、前年度比同水準を目指します。	3,453 回			
				前年度比同水準であるため、順調としました

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部の立ち上げにより、関係行政機関、団体の連携が図られ、各種施策をほぼ計画どおり進めることができました。活動指標であげた以外にも、深夜はいかひを繰り返す青少年の立ち直りを支援する北九州市青少年支援拠点「ドロップイン・センター」を開設し、1,300人を超える青少年に声かけを行うなど、継続的な立ち直り支援に取り組んでいます。また、非行少年の立ち直りを支援する見舞金制度の創設などに取り組み、非行歴のある青少年が就労しやすい環境づくりを進めるなど、成果を期待できる新しい取り組みを展開することができたので、順調と考えています。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) ※民間活力導入の視点	関係行政機関、団体の連携により、新しい施策を打ち出すことができましたが、地域において青少年の非行防止等に取り組む方々の高齢化が進んでおり、今後、事業実施に伴う負担の軽減に向け、関係機関・団体等の一層の連携と事業効率化が必要です。この取り組みには、行政機関の事業が絡むので、本市が関係機関と団体間の各種調整を行うなど、引き続き事務局機能を担う必要があります。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	青少年課
<b>事業名</b> 若者のための応援環境づくり推進事業					課長名	東田
					施策番号	
<b>事業概要</b> 不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。 そこで、若者のための応援環境づくりを推進します。	<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他					
	<b>コスト</b> 事業費	25年度当初予算額 1,552 千円	25年度執行額 1,045 千円	(事業費備考) 人件費	目安の金額 2,900 千円	課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.10 人

## 【Action】改善

<b>課題</b> H23年度の評価結果を受けての課題	若者向けホームページには、平成23年度は12,874件のアクセスがありました。目標には到達していないため、今後も内容の充実が必要です。また、北九州市子ども・若者支援地域協議会の運営(実務者会議11回)やユースアドバイザー養成講習会の開催(28名参加)を通じてネットワークづくりを行っていますが、今後も着実な運営・実施が必要です。	<b>見直し内容</b> 「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営や「ユースアドバイザー養成講習会」の開催を通じて、ネットワークに参画する関係機関の拡大・充実を図りますが、会の運営方法などの効率化を図り、予算は縮小します。「減額」
--------------------------------	--	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b> 対象(誰を、何を) 困難を抱えている子どもや若者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自身の抱える困難を解消し、円滑に社会生活を営めるようになることを目指します。	<b>成果の状況</b> 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
<b>代表的な成果指標</b> (最終目標と目標年度)	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている若者の割合 不安定な雇用やニートなど困難を抱えている若者の増加が社会問題となっています。このような現状の改善のため若者の自立支援に取り組むこととし、この指標を設定しています。なお、本市では困難を抱えている若者の割合を国勢調査に基づいて推計しているため、毎年度の数値を示すことは困難です。 (最終目標と目標年度) 平成22年度(7.37%)比減少(26年度)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績 25年度目標 25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由 平成25年度の若者向けホームページには23,796件のアクセスがありました。また、北九州市子ども・若者支援地域協議会実務者会議を6回実施し、ユースアドバイザー養成講習会には34名の参加がありました。 これにより、悩みや課題を抱える子ども・若者に対して一定の支援を行うことができたと考えています。

<b>活動計画</b> どうやって目的を達成するか 情報発信ツールとしての、若者向けホームページの運営や、関係機関との連携を図る「北九州市子ども・若者支援地域協議会」を運営します。また、ユースアドバイザー養成講習会を開催するなど、応援環境づくりを推進します。	<b>活動の状況</b> 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
<b>活動指標</b> 指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 若者向けホームページへのアクセス件数 インターネット等により、若者に有益な情報(就業支援等の各種施策、各種相談窓口、市の魅力、仲間づくり等)やそれぞれの専門機関の情報等を効果的かつタイムリーに発信し、若者をサポートする環境づくりを進めることで、若者の自立支援に取り組めます。 ユースアドバイザー養成講習会の参加者数 若者の自立支援に対応する専門的な相談員「ユースアドバイザー」を養成するため、研修・養成プログラムに基づき、「ユースアドバイザー養成講習会」を開催します。	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績 25年度目標 25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由 指標の目標を達成しています。

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b> 【成果の状況】 【活動の状況】 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況は、ホームページにおける若者にとって有益な情報の追加・改善や、子ども・若者支援地域協議会の開催による若者支援機関の連携強化、ユースアドバイザー養成講習会の実施による支援者のスキル向上などが図られたことにより、困難を抱える若者の支援に一定の成果があったものと考えられ、順調と判断しています。 一方、活動の状況はホームページのアクセス件数が23,796件と増加するなど指標の目標を達成しています。これは市内において若者支援に対する認知が進んでいることの現われであるため、順調に状況が改善しているものと考えています。
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点	ホームページソフトウェアをネットワーク経由のサービス利用型(SaaS型)とし、開発コスト及び運営コストを低減しています。

**PDCAチェックシート(平成25年度実績評価)**

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	青少年課
子ども・若者応援センター「YELL」の運営					課長名	東田
					施策番号	
事業概要	不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。 そのため、困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口『子ども・若者応援センター「YELL」』を開設し、自立を支援しています。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	事業費	25年度当初予算額 23,200 千円	25年度執行額 22,614 千円		(事業費備考)

**【Action】改善**

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度は、延べ相談件数が2,381件(来所1,120件、電話1,261件)、その内新規来所相談実人数は160人でしたが、相談機関へ未だ繋がっていない若者の存在が推測されること、また、相談・助言や専門機関の紹介だけでは若者の自立が進まないケースもあることが課題となっています。	見直し内容	・継続的に悩みや課題を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)しながら、相談機関へ繋がるための環境づくりについて検討します。 ・相談事業に加え、コーディネーターを中心に、若者の自立に向けたステップアップに繋がるよう、相談者の自立度に合わせた体験プログラムの提供について検討します。
----	-------------------	--	-------	--

**【Plan】計画**

**【Do】実施 → 【Check】評価**

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	困難を抱えている子どもや若者	自身の抱える困難を解消し、円滑に社会生活を営めるようになることを目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている若者の割合	8.33 %	—	5.36 %	平成25年度の子ども・若者応援センター「YELL」の延べ相談件数は2,366件で、新規来所相談実人数は122人でした。 悩みや課題を抱える122人の子ども・若者が、相談機関に繋がって支援を受けられるようになったことについては評価できます。	
	ニートやひきこもり、不安定な雇用形態等将来を見通せない不安の中、社会生活を円滑に営む上でさまざまな困難を抱えている若者の増加が社会問題となっています。このような現状の改善のため、若者の自立支援に取り組み、その成果をはかる指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 平成22年度(7.37%)比減少(26年度)	1.82 %		— %		
				%		
(最終目標と目標年度)						

活動計画	どうやって目的を達成するか	困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口として、子ども・若者応援センター「YELL」を運営します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	来所・電話相談件数	2,381 件	—	2,366 件	平成25年度の子ども・若者応援センター「YELL」の延べ相談件数が2,366件(来所906件、電話1,460件)でした。 「YELL」により、一人ひとりの相談者に対する継続的な支援が行われていることから順調としました。
	悩みや課題を抱える子ども・若者、その家族等を適切にサポートする活動指標として設定しました。	2,713 件		— %	
				%	

**【Check】評価(分析)**

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況については、平成25年度も一定の新規来所相談者があり、悩みや課題を抱える子どもや若者を相談機関である「YELL」へ繋ぐことができたため、順調と考えています。 また、活動の状況については、延べ相談件数や自立のステップアップのために必要な体験プログラムへの延べ参加者数(1,032人)の実績から、相談者に対して継続的な支援を行うことができ、順調と考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	運営業務を社会福祉法人へ委託し、経済的・効率的な運営を行っています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	青少年課
「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業					課長名	東田
					施策番号	
「Ⅰ 非行防止対策」「Ⅱ 非行からの『立ち直り』支援」「Ⅲ 薬物乱用の防止と啓発」「Ⅳ 地域団体・関係機関との連携強化」の4つの柱をたて、就労支援の取り組みを強化するなど、青少年の非行防止施策を総合的かつ積極的に展開します。					■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ( )	
					コスト	事業費

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	青少年の非行防止、立ち直り支援、薬物乱用防止に関する各種施策は、関係行政機関、団体がそれぞれ個別に取り組んでいる状況を踏まえ、今後、各機関、団体が連携し、一体となって取り組む必要があります。	青少年の非行防止、立ち直り支援、薬物乱用防止に関わる関係行政機関、団体が構成する「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部において、各種施策を一体的に見直し、総合的かつ効果的に進めました。
----	-------------------	-------	---	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調	
青少年	非行防止等に取り組む関係機関、団体の連携を図り、青少年が非行や犯罪を犯すことなく、また、加害者にも被害者にもならない地域づくりを進めます。また、非行や犯罪を犯しても、早期に立ち直ることができるような環境づくりに取り組みます。	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 非行者率 10歳から19歳までの少年人口1,000人当たりに刑法犯少年が占める割合をいい、前年比減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年比減少 30年 再犯者率 犯罪少年検挙人員のうち、再犯者が占める割合をいい、前年比減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年比減少 30年	上段:23年度実績 下段:24年度実績 25年度目標 平成24年(12.7人)より減少 12.7 人 平成24年(39.3%)より減少 39.3 %	25年度実績(達成率) 11.0 人 — % 38.1 % — %	成果の状況 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調 いずれの指標も前年数値よりも減少、改善したため、順調としました。

活動計画	活動指標	活動の状況	順調	
どうやって目的を達成するか 中学生を主な対象として、非行防止教室やメディアリテラシー教育の充実を図り、非行や犯罪被害の未然防止に対する意識を高めます。また、少年補導委員や青少年育成会、地域会議等、青少年の非行防止・健全育成に取り組む団体、また、協力雇用主会や保護司会等、非行からの立ち直りに取り組む団体の活動を支援します。さらに、非行の入り口と言われる深夜はいかひに対する対策も強化します。	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 非行防止教室等の参加者数 市立中学校の生徒を対象とした非行防止教室や、保護者や地域の方々を対象とした出前講演などを実施します。 少年補導委員補導活動回数 青少年を対象に補導活動を行う少年補導委員の補導活動件数を活動指標として、前年度比同水準を目指します。	上段:23年度実績 下段:24年度実績 25年度目標 平成24年度(13,180人)と同水準 平成24年度(3,453回)と同水準 8,086 人 13,180 人 3,391 回 3,453 回	25年度実績(達成率) 16,727 人 — % 3,882 回 — %	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調 前年度比同水準であるため、順調としました

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部の立ち上げにより、関係行政機関、団体の連携が図られ、各種施策をほぼ計画どおり進めることができました。活動指標であげた以外にも、深夜はいかひを繰り返す青少年の立ち直りを支援する北九州市青少年支援拠点「ドロップイン・センター」を開設し、1,300人を超える青少年に声かけを行うなど、継続的な立ち直り支援に取り組んでいます。また、非行少年の立ち直りを支援する見舞金制度の創設などに取り組み、非行歴のある青少年が就労しやすい環境づくりを進めるなど、成果を期待できる新しい取り組みを展開することができたので、順調と考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 関係行政機関、団体の連携により、新しい施策を打ち出すことができましたが、地域において青少年の非行防止等に取り組む方々の高齢化が進んでおり、今後、事業実施に伴う負担の軽減に向け、関係機関・団体等の一層の連携と事業効率化が必要です。この取り組みには、行政機関の事業が絡むので、本市が関係機関と団体間の各種調整を行うなど、引き続き事務局機能を担う必要があります。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	子ども総合センター
<b>事業名</b> 児童虐待防止(子どもの人権擁護)推進事業					課長名	山田
					施策番号	
<b>事業概要</b> 児童虐待の早期発見及び被虐待児童の迅速かつ適切な保護を行うため、関係機関との連携強化を図り、児童虐待の防止等のために必要な体制を整備するとともに、関係機関等の職員の研修及び広報活動を行います。					<b>事業手法</b> ■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					コスト	25年度当初予算額
16,710 千円	15,403 千円			33,200 千円		係長 0.90 人 職員 2.00 人

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	関係機関職員を対象にした「児童虐待対応リーダー養成研修」や市民や関係機関職員に対する「連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数は増加しています。今後も児童虐待の早期発見、早期対応等適切な支援ができるように、関係機関との連携を図りながら、対応することが必要です。	見直し内容	児童虐待通告のうち、虐待が認められた児童虐待対応件数の減少に取り組むため、今後とも、「児童虐待対応リーダー養成研修」等の研修・啓発を通じて、多くの関係者が協力しながら適切な対応ができるように、前年度並みの事業費で効率的に実施します。
----	-------------------	---	-------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	児童虐待事案	児童虐待に関する啓発や研修を積極的に行うとともに、児童虐待の早期発見、早期対応に努め、事案の減少を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	児童虐待対応件数		前年度比 減少	380 件	児童虐待通告件数は、平成24年度452件から平成25年度547件と21%増加しています。これに対して、通告のうち児童虐待と認められた児童虐待対応件数は、平成24年度に比べ9.8%の増加に留まっています。また、対応件数が一昨年より増加したのは、昨年9月から対象児のきょうだい児もフォローするようになったためです。このことから、児童虐待の早期発見や早期対応など、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりが進んでいると考えられることから、順調としました。	
	児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待対応件数の減少につながることから、成果指標にあげました。 (最終目標と目標年度) 減少 (26年度)	322 件		— %		
		346 件				
(最終目標と目標年度)		%				

活動計画	どうやって目的を達成するか	児童虐待相談対応体制の強化を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績			
活動指標	児童虐待問題連続講座の参加者数	266 人	前年度比 増加	304 人	「児童虐待問題連続講座」や「児童虐待対応リーダー養成研修」などを実施した結果、児童虐待通告件数が、平成24年度452件から平成25年度547件と21%増加しています。また、関係機関との連携がより図れるようになり、早期発見、早期対応ができるようになったと思われる。
	市民や関係機関職員を対象にした「児童虐待問題連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数が増加したことから、参加者数を指標として掲げました。	257 人		— %	
	児童虐待対応リーダー養成研修の参加者数	154 人	—	177 人	
	児童虐待の早期対応を図るため、保育所、学校等の職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を毎年実施しています。毎年対象施設が異なるため、参加者数も変動しますが、指標として掲げました。	242 人		— %	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	関係機関職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」や市民や関係機関職員に対する「連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数は、平成24年度に比べ21%(平成25年度: 547件)と大幅に増加しています。これに対して、通告のうち児童虐待と認められた児童虐待対応件数は、平成24年度に比べ9.8%(平成25年度: 380件)の増加に留まっています。子どもプランの目標設定時(平成20年度374件)と比較すると若干増加していますが、「子ども虐待対応の手引き」の昨年度の改正で、対象児のきょうだい児もフォローするようになったためです。このことから、児童虐待の早期発見や早期対応など、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりが進んでいると考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	児童虐待に関する研修や啓発については、専門的な知識や経験が必要で、学識経験者等による講義に加え、一部研修では経験を積んだ職員が講師を行うなど、効果的かつ効率的に実施しています。 また児童虐待対応は関係法令上、区や児童相談所がケースマネジメントの主体とならざるを得ないことから、本市と福岡県弁護士会北九州支部との間において、本市職員が月1回無料で法律相談を受けられる協定書を締結し、法律面での能力向上にも努めています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局	
					担当課	子育て支援課	
子ども・家庭相談コーナー運営事業					課長名	西尾	
					施策番号		II - 3 - (1) - ④
事業名	各区役所に「子ども・家庭相談コーナー」を設置し、子どもと家庭に関するあらゆる相談をひとつの窓口で受け、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげています。					■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
							事業概要
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		88,085 千円	86,216 千円			6,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.60 人

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、関係機関との連携を図りながら総合的な相談窓口としての役割を担っていますが、子どもと家庭に関する相談は増加しているとともに複雑化しています。事業の実施にあたっては、計画的な研修を通じて相談員の資質の向上が必要です。	見直し内容	平成25年度の予算は現状維持ですが、年間を通じて計画的に実施している初任者研修、主務者研修、弁護士会との合同研修、事例検討会等に加え、子ども・家庭相談コーナーのニーズに応じた研修を新たに行うことにより、相談員の資質の向上を図り、あらゆる相談にきめ細かく対応していきます。
----	-------------------	--	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	子どもや家庭等の悩みや不安を持つ相談者	「子ども・家庭相談コーナー」で、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図ります。	25年度実績(達成率)	380 件 — %	児童虐待対応件数は、増加傾向にありますが、その相談内容は複雑化しています。関係機関と連携して、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図っていることから順調としました。
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標		
	児童虐待対応件数	322 件	前年度比減少		
	児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待防止につながり、結果として、児童虐待対応件数の減少として現れることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元氣発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	346 件			
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげ、総合的な相談窓口としての役割を担います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由 相談件数は、やや減少しましたが、その相談内容は多様化しています。子ども・家庭相談コーナーでは、関係機関と連携して、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図っていることから順調としました。
	相談件数	76,648 件	—	76,801 件	
	各区の「子ども・家庭相談コーナー」において、子ども・家庭相談員等が、来所、電話、訪問、手紙など、様々な形態による相談に応じています。その相談件数を活動指標として設定しました。	77,404 件		— %	
				%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	子どもと家庭をとりまく環境は変化しており、子どもと家庭に関する相談は多様化・複雑化しています。子ども・家庭相談コーナーでは、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図るとともに、関係機関との連携により一定の成果をあげており、業務の適正な運営がなされています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	事業実施にあたり、計画的な研修を通じて相談員の資質の向上を図るなど効率的な運営をしています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局						
担当課	男女共同参画推進課						
課長名	櫻江						
施策番号							
II - 3 - (2) - ①							
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金						
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金						
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理						
	<input type="checkbox"/> その他						
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考) 施設等管理費(予算額242、854千円、 執行額245,558千円)を含む。	人件費	目安の金額	課長 0.20 人	(人件費備考)
事業費	306,016 千円	305,383 千円			係長 0.30 人		
				7,550 千円	職員 0.30 人		

## 【Action】改善

課題	H23年度の「北九州市の男女共同参画社会に関する調査」において「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」が薄れる結果となりましたが、今後も、更なる広報・啓発の推進や、働く場における女性の活躍の推進が必要です。	見直し内容	更なる固定的役割分担意識解消に向けての広報啓発や女性の就職・再就職、またキャリアアップ推進のための講座などに工夫を加え、より効果的になるよう取り組みます。
----	--	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
目的	社会全体	働く場における女性の活躍の推進や、子育て等の家庭生活における男女共同参画のさらなる推進を図るとともに、男女共同参画に関する市民の理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
	代表成果指標	<p><b>指標</b>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</p> <p>男女共同参画社会という言葉の認知度</p> <p>上段:23年度実績 下段:24年度実績</p> <p>68.9 %</p> <p>平成23年度の水準より増加</p> <p>— %</p> <p>(最終目標と目標年度)80%(30年度)</p> <p>性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合</p> <p>38.7 %</p> <p>平成23年度の水準より減少</p> <p>— %</p> <p>(最終目標と目標年度)減少(30年度)</p>	25年度実績(達成率)	平成28年度調査予定	— %	成果の状況評価理由

活動計画	活動の状況	順調			
<p>どうやって目的を達成するか</p> <p>男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディス(もじ・やはた)において、講座やセミナーの開催等、男女共同参画の推進のための様々な事業を実施し、男女共同参画社会の形成を推進します。</p>	<p>活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック</p>	順調			
<p><b>指標</b>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</p> <p>ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等開催件数</p> <p>227 件</p> <p>前年度比同程度</p> <p>226 件</p> <p>101.3 %</p> <p>性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。</p> <p>ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等参加者数</p> <p>39,754 人</p> <p>前年度比同程度</p> <p>37,971 人</p> <p>36,680 人</p> <p>96.6 %</p> <p>性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。</p>	25年度実績(達成率)	平成28年度調査予定	— %	活動の状況評価理由	男性の家事・育児・介護への参画促進のための新規講座の実施や、働く女性を支援する様々な事業を実施してきたことなどから順調としました。

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>新たに、共働きをしながら子育てをする夫婦を支援する講座等を実施し、また女性の就業・キャリアアップ支援に重点を置き、内容にも工夫を加えるなど、ほぼ予定通りに実施出来たので、順調としました。</p>
	<p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>ムーブ及びレディスの運営については指定管理者制度を導入し、効率的かつ経済的な事業実施に努めています。</p>

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	男女共同参画推進課
		課長名	櫻江
<b>事業概要</b>		施策番号	
事業名	地域における男女共同参画推進啓発事業	II - 3 - (2) - ①	
事業概要	地域における男女共同参画の推進を図るため、地域で活動している団体・グループ等が企画・実施する広報啓発活動を支援し、男女共同参画に関する理解を深めていきます。	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額
		6,132 千円	3,706 千円
		(事業費備考)	人件費
		目金の金額	課長 0.10 人
		5,400 千円	係長 0.20 人
			職員 0.30 人
			(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合は、前回調査に比べ減少しましたが、今後も男女共同参画社会の実現へ向けてさらなる推進が必要です。	見直し内容	北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で、「男女共同参画フォーラムin北九州」や男女共同参画に関する広報啓発事業を実施し、さらなる地域における男女共同参画意識の向上を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調		
	市民	地域で活動しているNPO等と協働で、固定的役割分担意識解消のための広報・啓発事業を市民センターなど市内一円でを行い、男女共同参画に関する理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	男女共同参画社会という言葉の認知度	68.9 %	平成23年度の水準より増加	平成28年度調査予定		
	広報啓発事業や就労支援事業などの様々な事業推進の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「男女共同参画社会という言葉の認知度」を設定しました。 (最終目標と目標年度)80%(30年度)	-		- %		男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、性別による固定的役割分担意識が薄れてきたため、順調としました。なお、次回の調査は平成28年度に実施予定です。
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか ・北九州市女性団体連絡会議との協働による「男女共同参画フォーラムin北九州」を開催します。 ・NPO等の公募による男女共同参画に関する広報啓発事業を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	「男女共同参画フォーラムin北九州」及び男女共同参画に関する広報啓発事業(公募制)の実施回数	74 回	前年度比同程度	69 回		
	北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めることから、活動指標として掲げました。	72 回		95.8 %		北九州市女性団体連絡会議及びNPO等と協働による啓発事業は、より多くの市民参加により、地域において男女共同参画意識の向上を目指しています。なお、ファシリテーター養成講座を行うなど講座の内容の充実を図り、概ね計画どおりに実施できていることより順調としました。
	「男女共同参画フォーラムin北九州」及び男女共同参画に関する広報啓発事業(公募制)の参加者数	5,414 人	前年度比同程度	4,254 人		
北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めることから、活動指標として掲げました。	5,659 人		75.2 %			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働により市内一円で実施した、「男女共同参画フォーラムin北九州」や男女共同参画に関する広報啓発事業について、回数及び参加者数がともやや減少しましたが、若年層を対象に新たな視点で男女共同参画をテーマにした講座の開催や、女性団体やNPO等を対象としたファシリテーター養成講座を行うなど、内容の充実と質の向上に努め、概ね計画どおり実施できていることより順調としました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>北九州市女性団体連絡会議やNPO等と連携を図って広いネットワークを活用しながら、多くの市民に対して継続的に広報・啓発活動を効率的に実施しています。</p>



# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局	
		担当課	男女共同参画推進課	
		課長名	櫻江	
		施策番号		
		II - 3 - (2) - ②		
事業名	ワーク・ライフ・バランス推進事業			
事業概要	誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、企業等の取組み支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進を図ります。			
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費
	15,891 千円	13,349 千円		目金の金額
				課長 0.20 人
				係長 0.50 人
				職員 0.50 人
				(人件費備考)
				( )

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、市民等の理解をさらに進める必要があります。
			「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に関係機関がさらに連携・協働して、講演会の開催や推進キャンペーン等を実施し、市民や企業等にワーク・ライフ・バランスを働きかけていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民や企業等	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、ワーク・ライフ・バランスの推進及び実践に向けた企業等の取組支援や啓発事業等を行うことにより、誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現できるようにします。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合	30.3 %	前年度比 増加	28.2 %	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に様々な取組みを行った結果、両立が図られていると感じている人は、やや減少していますが、活動指標の目標も達成され、成果も表れていることから、順調としました。
	仕事と生活のバランスについて、両立が図られていると感じる人が少なく、ワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度)増加(26年度)	29.8 %		%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を開催します。 ・企業向け講演会やアドバイザー派遣などによる企業等に対する働きかけを行います。 ・従業員向け広報啓発やワーク・ライフ・バランス表彰の実施を市内企業や事業所に呼びかけます。 ・ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンなどによる広報啓発事業を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数(累計)	31 社(人)	45 社(人)	45 社(人)	「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰」について、受賞者数は目標に達しており、アドバイザー派遣についても、派遣回数が増加するなど、企業等においてワーク・ライフ・バランスの認識が高まったことがうかがえることから順調としました。
	ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業等を表彰し、事例集等で広く紹介することが、企業等における取組みの支援・促進につながることから、活動指標として掲げました。	40 社(人)		100.0 %	
	北九州市ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣回数	11 回	前年度比 同程度	22 回	
新たにワーク・ライフ・バランスに取り組もうとする事業者やその充実を図ろうとする事業者等に対し、アドバイザーを派遣することで、ワーク・ライフ・バランスの推進につながるから、活動指標として掲げました。	10 回	220.0 %			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、11月の推進キャンペーン、企業向け講演会の開催やアドバイザーの派遣を行いました。また、「子ども参観日」の実施を市内企業・事業所に呼びかけ、子育てしながら働きやすい職場環境づくりの推進に努めました。このように市民や企業等へワーク・ライフ・バランスの取組みを働きかけた結果、北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数は目標に達し、推進アドバイザー派遣回数も増加したことから、順調と考えています。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取組むことにより、効率的にそれぞれの立場から、地域や個人(家庭)等に直接働きかけていきました。また、企業向け講演会については、アジア女性会議と共催することにより、広く市民や企業にワーク・ライフ・バランスについて啓発することができました。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	男女共同参画推進課
<b>事業名</b> 男女共同参画基本計画推進事業【配偶者等からの暴力対策事業】					課長名	櫻江
					施策番号	
<b>事業概要</b> 配偶者や恋人等、親しい関係にある人からの暴力は、重大な人権侵害であることを誰もが認識し、暴力を容認しない意識の醸成のための広報・啓発を行います。 子どもの頃からの男女共同参画意識の醸成や今後の進路選択に役立てるため、市内の小学5・6年生と中学生を対象に男女共同参画についての基本的な項目をまとめた副読本を作成し、配付します。					<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	7,475 千円	3,785 千円			11,300 千円	(人件費備考)

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H23年度の評価結果を受けての課題	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、DV被害の相談窓口として、警察や区役所の認知度が上がりましたが、配偶者等との間における「平手で打つ」「殴るふりをしておどす」について、暴力と認識する人の割合は増加していません。今後も、DVに関する正しい認識について、さらなる周知・啓発が必要です。	<b>見直し内容</b>	NPO等と連携を図り、DV・デートDVの予防啓発に関する出前講演等を地域や学校等において実施し、配偶者等からの暴力に関する正しい認識の促進を引き続き図っていきます。

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	<b>順調</b>
	市民	配偶者等からの暴力について正しく認識し、それぞれの人権を尊重する意識を醸成します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>
	配偶者等との間における「平手で打つ」について、暴力と認識する人の割合	55.2 %			
	DV(配偶者等からの暴力)を根絶するためには、暴力に関する正しい認識の周知・啓発が不可欠であることより、成果指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)70%(30年度)	—	%		
	(最終目標と目標年度)				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	・NPO等との協働による出前講演など、地域・学校などにおけるDV対策広報啓発事業を実施します。 ・DV対策関係機関連絡会議を開催します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	<b>順調</b>
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>活動の状況評価理由</b>
	DV・デートDVの予防啓発に関する出前講演等の実施回数	45 回			
	NPO等との協働やムーブ主催の出前講座等により、地域・学校等におけるDVに対する正しい認識を深め、潜在しているDV被害者の支援に努めます。	41 回	%		

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	DV相談窓口紹介カード等を公共施設等に配付したり、NPO等と連携して地域や学校において出前講演を開催するなど、DV対策啓発事業を実施しました。デートDVについては若者だけでなく、幅広い世代に周知してもらうよう新聞広告などを通じて啓発に努めました。また、DV被害者支援のため、警察など関係機関との連絡会議を開催して情報を共有するとともに、相互に連携を図りながらDV対策業務を行うなど、概ね計画通りに実施できていることから、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	NPO等との連携を図って、出前講演や学校での予防教室等を実施するなど、経済性・効率性は高いと考えます。また、デートDV予防教室活用セミナーについては、県との共催で実施しました。今後、さらに効果的な啓発に努めていきます。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局								
担当課	男女共同参画推進課								
課長名	櫻江								
施策番号									
II - 3 - (2) - ④									
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金								
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金								
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理								
	<input type="checkbox"/> その他								
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考) 施設等管理費(予算額242、854千円、 執行額245,558千円)を含む。	人件費	目安の金額	課長 0.20 人	係長 0.30 人	職員 0.30 人	(人件費備考)
事業費	306,016 千円	305,383 千円			7,550 千円				

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	「北九州市の男女共同参画社会に関する調査」において「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」が薄れる結果となりましたが、今後も、更なる広報・啓発の推進や、働く場における女性の活躍の推進が必要です。	見直し内容	更なる固定的役割分担意識解消に向けての広報啓発や女性の就職・再就職、またキャリアアップ推進のための講座などに工夫を加え、より効果的になるよう取り組みます。
----	-------------------	--	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	社会全体	働く場における女性の活躍の推進や、子育て等の家庭生活における男女共同参画のさらなる推進を図るとともに、男女共同参画に関する市民の理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。				
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	<b>25年度目標</b>	<b>25年度実績(達成率)</b>	<b>成果の状況評価理由</b>	
	男女共同参画社会という言葉の認知度	68.9 %	平成23年度の水準より増加	平成28年度調査予定 — %	ムーブ及びレディスにおける就業支援講座や、地域における広報啓発活動などの取組みが、概ね計画通りに実施でき、女性の就職・再就職の支援等、男女共同参画社会の形成に繋がったことから、順調としました。	
	広報啓発事業や就労支援事業などの様々な事業推進の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「男女共同参画社会という言葉の認知度」を設定しました。 (最終目標と目標年度)80%(30年度)	—				
	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	38.7 %	平成23年度の水準より減少	平成28年度調査予定 — %		
広報・啓発事業の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」を設定しました。 (最終目標と目標年度)減少(30年度)	—					

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディス(もじ・やはた)において、講座やセミナーの開催等、男女共同参画の推進のための様々な事業を実施し、男女共同参画社会の形成を推進します。	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績			
活動指標	ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等開催件数	227 件	前年度比同程度	229 件	男性の家事・育児・介護への参画促進のための新規講座の実施や、働く女性を支援する様々な事業を実施してきたことなどから順調としました。	
	性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。	226 件		101.3 %		
	ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等参加者数	39,754 人	前年度比同程度	36,680 人		
	性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。	37,971 人		96.6 %		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	新たに、共働きをしながら子育てをする夫婦を支援する講座等を実施し、また女性の就業・キャリアアップ支援に重点を置き、内容にも工夫を加えるなど、ほぼ予定通りに実施できたので、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	ムーブ及びレディスの運営については指定管理者制度を導入し、効率的かつ経済的な事業実施に努めています。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局
担当課	男女共同参画推進課
課長名	櫻江
施策番号	
Ⅲ - 3 - (3) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	(人件費備考)

事業概要					
事業名	ワーク・ライフ・バランス推進事業				
	誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、企業等の取組み支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進を図ります。				
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	15,891 千円	13,349 千円			11,050 千円
				課長	0.20 人
				係長	0.50 人
				職員	0.50 人

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容
	「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、市民等の理解をさらに進める必要があります。	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に関係機関がさらに連携・協働して、講演会の開催や推進キャンペーン等を実施し、市民や企業等にワーク・ライフ・バランスを働きかけていきます。

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調	
	市民や企業等	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、ワーク・ライフ・バランスの推進及び実践に向けた企業等の取組支援や啓発事業等を行うことにより、誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現できるようにします。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合	30.3 %	前年度比 増加	28.2 %	
	仕事と生活のバランスについて、両立が図られていると感じる人が少なく、ワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。	29.8 %		%	
	(最終目標と目標年度)増加(平成26年度)			%	
(最終目標と目標年度)					

活動計画	活動の状況	順調			
どうやって目的を達成するか ・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を開催します。 ・企業向け講演会やアドバイザー派遣などによる企業等に対する働きかけを行います。 ・従業員向け広報啓発やワーク・ライフ・バランス表彰の実施を市内企業や事業所に呼びかけます。 ・ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンなどによる広報啓発事業を実施します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
活動指標	北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数(累計)	31 社(人)	45 社(人)	45 社(人)	「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰」について、受賞者数は目標に達しており、アドバイザー派遣についても、派遣回数が増加するなど、企業等においてワーク・ライフ・バランスの認識が高まったことがうかがえることから順調としました。
	ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業等を表彰し、事例集等で広く紹介することが、企業等における取組みの支援・促進につながることから、活動指標として掲げました。	40 社(人)		100.0 %	
	北九州市ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣回数	11 回	前年度比 同程度	22 回	
	新たにワーク・ライフ・バランスに取り組もうとする事業者やその充実を図ろうとする事業者等に対し、アドバイザーを派遣することで、ワーク・ライフ・バランスの推進につながることから、活動指標として掲げました。	10 回		220.0 %	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、11月の推進キャンペーン、企業向け講演会の開催やアドバイザーの派遣を行いました。また、「子ども参観日」の実施を市内企業・事業所に呼びかけ、子育てしながら働きやすい職場環境づくりの推進に努めました。このように市民や企業等へワーク・ライフ・バランスの取組みを働きかけた結果、北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数は目標に達し、推進アドバイザー派遣回数も増加したことから、順調と考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取り組むことにより、効率的にそれぞれの立場から、地域や個人(家庭)等に直接働きかけていきました。また、企業向け講演会については、アジア女性会議と共催することにより、広く市民や企業にワーク・ライフ・バランスについて啓発することができました。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局						
担当課	男女共同参画推進課						
課長名	櫻江						
施策番号							
IV - 3 - (2) - ②							
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金						
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金						
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理						
	<input type="checkbox"/> その他						
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考) 施設等管理費(予算額242、854千円、 執行額245,558千円)を含む。	人件費	目安の金額	課長 0.20 人	(人件費備考)
事業費	306,016 千円	305,383 千円		7,550 千円	係長 0.30 人		
					職員 0.30 人		

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	「北九州市の男女共同参画社会に関する調査」において「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」が薄れる結果となりましたが、今後も、更なる広報・啓発の推進や、働く場における女性の活躍の推進が必要です。	見直し内容	更なる固定的役割分担意識解消に向けての広報啓発や女性の就職・再就職、またキャリアアップ推進のための講座などに工夫を加え、より効果的になるよう取り組みます。
----	-------------------	--	-------	---

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
目的	社会全体	働く場における女性の活躍の推進や、子育て等の家庭生活における男女共同参画のさらなる推進を図るとともに、男女共同参画に関する市民の理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
	代表成果指標	<p><b>指標</b>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</p> <p>男女共同参画社会という言葉の認知度</p> <p>上段:23年度実績 下段:24年度実績</p> <p>68.9 %</p> <p>平成23年度の水準より増加</p> <p>— %</p> <p>(最終目標と目標年度)80%(30年度)</p> <p>性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合</p> <p>38.7 %</p> <p>平成23年度の水準より減少</p> <p>— %</p> <p>(最終目標と目標年度)減少(30年度)</p>	25年度実績(達成率)	平成28年度調査予定	— %	成果の状況評価理由

活動計画	活動の状況	順調
<p>どうやって目的を達成するか</p> <p>男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディス(もじ・やはた)において、講座やセミナーの開催等、男女共同参画の推進のための様々な事業を実施し、男女共同参画社会の形成を推進します。</p>	<p>活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック</p>	順調
<p><b>指標</b>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</p> <p>ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等開催件数</p> <p>227 件</p> <p>前年度比同程度</p> <p>226 件</p> <p>101.3 %</p> <p>性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。</p> <p>ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等参加者数</p> <p>39,754 人</p> <p>前年度比同程度</p> <p>37,971 人</p> <p>36,680 人</p> <p>96.6 %</p> <p>性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。</p>	<p>25年度実績(達成率)</p> <p>229 件</p> <p>101.3 %</p> <p>36,680 人</p> <p>96.6 %</p>	<p>活動の状況評価理由</p> <p>男性の家事・育児・介護への参画促進のための新規講座の実施や、働く女性を支援する様々な事業を実施してきたことなどから順調としました。</p>

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】</p> <p>【活動の状況】</p> <p>を踏まえた分析</p> <p>※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p>	<p>新たに、共働きをしながら子育てをする夫婦を支援する講座等を実施し、また女性の就業・キャリアアップ支援に重点を置き、内容にも工夫を加えるなど、ほぼ予定通りに実施できたので、順調としました。</p>
	<p>「経済性」(同成果を低コストで)</p> <p>「効率性」(同コストで高成果を)</p> <p>の分析</p> <p>※民間活力導入の視点</p>	<p>ムーブ及びレディスの運営については指定管理者制度を導入し、効率的かつ経済的な事業実施に努めています。</p>

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	子ども家庭局
					担当課	保育課
事業名 特別保育事業補助					課長名	本脇
					施策番号 IV - 3 - (2) - ②	
事業概要 保護者の就労形態の多様化等に対応するため、保育所の保育時間を午後7時もしくは8時まで延長する「延長保育」の充実を図ります。また、保護者のパート就労や冠婚葬祭、および育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育する「一時保育」の充実を図ります。さらに、保育所の通常保育に加え、延長保育や一時保育においても、統合保育の可能な障害のある児童の受け入れを行う「障害児保育」の充実を図ります。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					コスト	25年度当初予算額 1,464,763 千円

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	成果指標として設定した「保育所に対する満足度(保育内容)」は、高い割合で推移しています。社会経済状況の変化や保護者の就労形態の多様化等に伴い、子育て環境は変化しており、保育所特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズも刻々と変化していくため、これに対応していくことが必要です。	見直し内容	成果指標である「保育所に対する満足度(保育内容)」の更なる向上を目指し、特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズの変化などの状況把握に努め、利用可能施設を拡充していきます。
----	-------------------	---	-------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を) 児童および保護者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 保育所の特別保育事業の拡充および質の向上を図ることで、安全安心な子育て環境を整備し、安心して働き、子育てできる社会を実現します。また、障害のある児童を含め、子どもの福祉向上を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	保育所に対する満足度(保育内容)	81.0 %	平成24年度(86%)の水準を維持もしくは向上	78.5 %	保育所に対する満足度は、昨年度より減少していますが、依然高い割合で推移しています。また、多様な保育ニーズに対応するため、延長保育や一時保育を平成25年度に新たに4箇所で開催するとともに、障害児保育については、引き続き全保育所において受け入れが可能な状況の中、109所で受け入れを行いました。以上のことから、成果の状況はほぼ順調に推移していると判断しました。
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みに対する成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)向上(平成26年度)	86.0 %		- %	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 引き続き、延長保育実施施設数および一時保育実施施設数を増やすことで、活動指標で定めた目標数を達成します。障害児保育については、既に統合保育が可能な障害児の受け入れを全保育所で取り進むと同時に、直営保育所においては、統合保育が可能な重度障害児の受け入れも行っていきます。また、延長保育および一時保育における、障害児保育の実施率の向上にも努めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	延長保育を実施する保育所の施設数	142 所	148 所	148 所	「元気発進！子どもプラン」に基づき、目標値に向けて確実に実施施設数を増やしており多様な保育サービスを幅広く展開できていることから目標達成しているといえます。
	保育所の新設や公立民営化に伴う延長保育の実施、既存保育所の新規実施により、延長保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながることから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン」に基づく)	144 所		100.0 %	
	一時保育を実施する保育所の施設数	59 所	67 所	67 所	
保育所の新設や改築により、一時保育室を設置するなどして、一時保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながるから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン」に基づく)	63 所		100.0 %		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成25年度は、延長保育事業(1時間延長)の実施施設を4所増設し、合計148所で延長保育を実施しました。平成25年度の延べ利用児童数は、17,925人であり、多様化する就労形態への対応として高い効果があります。また、一時保育事業の実施施設を4所で新規開設し、全67所において実施しました。平成25年度の延べ利用児童数は、23,908人であり、一時的な就労等多様化する就労形態の対応や、専業主婦の育児リフレッシュの対応等について高い効果があります。障害児保育については、平成26年3月1日現在、109所で322名の障害児を受け入れました。直営保育所では、重度障害児18名を受け入れました。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、かつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、今後も障害児保育のニーズは高まると予想され、有効性は高いと思われます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	延長保育、一時保育については、国の補助を活用しながら効果的に事業を実施しています。障害児保育については、現在は障害児数に応じた職員配置保育士やパート保育士で行っており、効率性は高いといえます。

# P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	子ども家庭局							
担当課	男女共同参画推進課							
課長名	櫻江							
施策番号								
VII - 1 - (3) - ③								
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金							
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金							
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理							
	<input type="checkbox"/> その他							
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.10 人	(人件費備考)
事業費	76,890 千円	64,753 千円			係長	0.20 人		
				4,650 千円	職員	0.20 人		

## 【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	国際的な調査研究事業等を含めた活動成果を、できるだけわかりやすい形で市民や地域へ情報発信していき、報告会やセミナーなどへの幅広い市民の参加、理解を図ることが必要であると考えます。	見直し内容	研究活動成果をわかりやすい形で情報発信していくとともに、市民の視点やニーズに合ったテーマを設定した講演会やセミナーを開催します。
----	-------------------	---	-------	--

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	社会全体	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	日本及びアジア諸国の男女共同参画に関する調査・研究、国際交流・研修、情報収集・発信等を行う(公財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動を支援し、市民にわかりやすい形で情報発信や地域貢献を行い、本市における男女共同参画社会の形成を推進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	男女共同参画社会という言葉の認知度	68.9 %	平成23年度(68.9%)の水準より増加	平成28年度調査予定	アジア女性会議の開催、韓国の女性機関との交流、女子学生のためのキャリア形成プログラムの作成と実施、市民参加の海外スタディツアーなど、様々な事業を行い、概ね計画どおりに進捗したことから、順調としました。		
	広報啓発事業や就労支援事業などの様々な事業推進の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「男女共同参画社会という言葉の認知度」を設定しました。	—		— %			
	(最終目標と目標年度)80%(30年度)						
(最終目標と目標年度)			%				

活動計画	どうやって目的を達成するか	日本及びアジア諸国の男女共同参画に関する調査・研究事業、国際交流・研修事業、情報収集・発信事業を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
活動指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民に身近なテーマについてのセミナーや講演会の開催	—	前年度の水準を維持	—	海外の領事館の方が自国における身近な男女共同参画の状況について話すセミナーを開催し、多くの市民に対し、国際的な視点からの男女共同参画の理解の一助となりました。また、情報発信のツールとしてフェイスブックの活用を始め、多くの市民に対する情報提供を行ったことから順調としました。		
	市民に身近なテーマについて、セミナーや講演会を開催し、市民の男女共同参画意識の醸成を図ります。	—		— %			
	市民にわかりやすい情報発信	—	前年度の水準を維持	—			
市民にわかりやすい情報発信を通して、市民の男女共同参画意識の醸成を図ります。	—		— %				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	男女共同参画などの視点に立って本市とアジアを結ぶ交流等の場である「アジア女性会議」と、市のワーク・ライフ・バランス表彰式との共同開催や、仁川広域市と北九州市各々の女性団体との意見交換会、また、女子学生のためのキャリア形成プログラムの作成と実施、市民参加の海外スタディツアーの開催など、市民にわかりやすく参加しやすい事業を展開し成果を得たことで「順調」としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	これまで培ってきたネットワークを生かして、男女共同参画社会の形成の推進に向け、様々な視点からコスト削減・効率化に努めています。